別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画										
事　項						記　入　欄				備　考
計画の区分						学部の設置				
フリガナ 設置者						ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ ﾀｲｼｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　大正大学				
フリガナ 大学の名称						ﾀｲｼｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 大正大学　(Taisho University)				
大学本部の位置						東京都豊島区西巣鴨３丁目20番１号				
大学の目的						教育基本法及び学校教育法に従い、仏教精神「智慧と慈悲の実践」により人間を総合的に理解し、人類の福祉に貢献する人材を養成すること				
新設学部等の目的						【人間学部】 現代社会における今日的課題に対し、主体的・積極的に対峙する能力及び多様な価値観を尊重しつつ他者と協働して解決に導く能力を備えた人材を養成する。 【人間科学科】 社会学・心理学・身体科学を中心とした人間科学の幅広い知見と高い公共性を身につけ、時代の変化に積極的に対応し、自ら課題を発見・解決できる人材を養成する。 【社会福祉学科】 今日的課題である社会福祉について、社会における人間同士の関わりや共生という観点を踏まえて実践から学び、人や地域、社会に対して積極的に貢献できる福祉マインドと現場の諸課題を解決する能力をもったソーシャルワーカーを養成する。				
新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	人間学部 [Faculty of Human Studies]	人間科学科 [Department of Human Sciences]	年 4	人 120	年次 人 3年次 2	人 484	学士 （人間科学） [Bachelor of Human Sciences]	社会学・社会福祉学関係 文学関係	令和　年　月 第　年次 令和6年4月 第1年次 令和8年4月 第3年次	東京都豊島区西巣鴨3丁目20番1号
		社会福祉学科 [Department of Social Welfare]	4	65	3年次 2	264	学士 （社会福祉学） [Bachelor of Social Welfare]	社会学・社会福祉学関係	同上	
	計			185	4	750				
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）						社会共生学部（廃止） 公共政策学科　(△130) 社会福祉学科　(△65) （３年次編入学定員）　(△　2) ※令和６年４月学生募集停止 （３年次編入学定員は令和８年４月学生募集停止） 心理社会学部（廃止） 人間科学科　(△120) （３年次編入学定員）　(△　2) 臨床心理学科　(△110) （３年次編入学定員）　(△　2) ※令和6年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止) 地域創生学部公共政策学科　(100)　(令和5年4月届出) 人間学部人間科学科　(120)　(令和5年4月届出) 人間学部社会福祉学科　(65)　(令和5年4月届出) 表現学部メディア表現学科　(155)　(令和5年4月届出) 表現学部表現文化学科〔定員減〕　(△125)　(令和6年4月)				
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数						卒業要件単位数	
			講義	演習	実験・実習	計				
	人間学部人間科学科		83 科目	24 科目	3 科目	110 科目			124単位	
	人間学部社会福祉学科		83 科目	37 科目	9 科目	129 科目			124単位	

学部等の名称	基幹教員 教授	基幹教員 准教授	基幹教員 講師	基幹教員 助教	基幹教員 計	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
新設分 人間学部　人間科学科	8 人 (8)	2 人 (2)	1 人 (1)	0 人 (0)	11 人 (11)	0 人 (0)	137 人 (137)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			
人間学部　社会福祉学科	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	133 (133)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			
地域創生学部　公共政策学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	128 (128)	※令和5年4月届出済み
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
臨床心理学部　臨床心理学科	6 (6)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	121 (121)	※令和5年4月届出済み
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	6 (6)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	14 (14)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	6 (6)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	14 (14)			

	学部等の名称	基幹教員 教授	准教授	講師	助教	計	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
新設分	表現学部 メディア表現学科	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	160 (160)	※令和5年4月届出済み
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)			
	計	33 (33)	9 (9)	10 (10)	0 (0)	52 (52)	0 (0)	― (―)	
既設分	地域創生学部　地域創生学科	7 (7)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	129 (129)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	17 (17)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	7 (7)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	17 (17)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	7 (7)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	17 (17)			
	表現学部　表現文化学科	5 (5)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	167 (167)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (5)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	5 (5)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	10 (10)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	5 (5)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	10 (10)			
	文学部　日本文学科	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	138 (138)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)			

既設分	学部等の名称	基幹教員 教授	准教授	講師	助教	計	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	文学部　人文学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	130 (130)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
	文学部　歴史学科	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	140 (140)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)			
	仏教学部　仏教学科	9 (9)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	176 (176)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	20 (20)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	9 (9)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	20 (20)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	9 (9)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	20 (20)			
	総合学修支援機構DAC	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	5 (5)			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	5 (5)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	5 (5)			

既設分	学部等の名称	基幹教員 教授	准教授	講師	助教	計	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）
	教職支援センター	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)		
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)		
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)		
	エンロールメント・マネジメント研究所	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)		
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)		
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)		
	計	42 (42)	26 (26)	19 (19)	3 (3)	90 (90)	0 (0)	― (―)
	合計	75 (75)	35 (35)	29 (29)	3 (3)	142 (142)	0 (0)	― (―)

職種	専属	その他	計
事務職員	99人 (99)	53人 (53)	152人 (152)
技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
図書館職員	7 (7)	10 (10)	17 (17)
その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
指導補助者	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	106 (106)	63 (63)	169 (169)

校地等 区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
校舎敷地	68,904.84㎡	0㎡	0㎡	68,904.84㎡	校舎敷地のうち、21,135.55㎡は(学)佛教教育学園から貸与
その他	5,035.94㎡	0㎡	0㎡	5,035.94㎡	
合計	73,940.78㎡	0㎡	0㎡	73,940.78㎡	［貸与期間］H28.4から20年間

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	59,479.93㎡ (59,479.93㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	59,479.93㎡ (59,479.93㎡)

教室・教員研究室	教室	教員研究室	
	150室	20室	大学全体

図書・設備 新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕 冊	電子図書〔うち外国書〕	学術雑誌〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
人間科学科	18,551〔4,353〕 (17,891〔4,293〕)	43〔0〕 (43〔0〕)	856〔150〕 (856〔150〕)	9,807〔9,807〕 (9,807〔9,807〕)	0 (0)	0 (0)	学術雑誌は学部共通、電子ジャーナルは大学全体で共用
社会福祉学科	12,223〔872〕 (11,914〔863〕)	34〔0〕 (34〔0〕)	856〔150〕 (856〔150〕)	9,807〔9,807〕 (9,807〔9,807〕)	0 (0)	0 (0)	
計	30,774〔5,225〕 (29,805〔5,156〕)	77〔0〕 (77〔0〕)	856〔150〕 (856〔150〕)	9,807〔9,807〕 (9,807〔9,807〕)	0 (0)	0 (0)	

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	
	1,325.79㎡	0㎡	5,692.11㎡	大学全体

経費の見積り及び維持方法の概要 区分		開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	－ 千円	－ 千円	共同研究費は大学全体
	共同研究費等		11,000千円	11,000千円	11,000千円	11,000千円	－ 千円	－ 千円	
	図書購入費 人間科学科	3,400千円	3,400千円	3,400千円	3,400千円	3,400千円	－ 千円	－ 千円	
	図書購入費 社会福祉学科	3,600千円	3,600千円	3,600千円	3,600千円	3,600千円	－ 千円	－ 千円	
	設備購入費 人間科学科	15,100千円	15,100千円	15,100千円	15,100千円	15,100千円	－ 千円	－ 千円	
	設備購入費 社会福祉学科	800千円	800千円	800千円	800千円	800千円	－ 千円	－ 千円	
学生１人当り納付金			第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
		人間科学科	1,412千円	1,412千円	1,412千円	1,412千円	－ 千円	－ 千円	
		社会福祉学科	1,462千円	1,462千円	1,462千円	1,462千円	－ 千円	－ 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要			寄付金、雑収入　他						

	大学等の名称	大正大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次 人	人		倍			
既設大学等の状況	仏教学部	4	100	3年次 33	466		0.92	平成22	東京都豊島区西巣鴨三丁目20番1号	※令和4年度より編入学定員増加
	仏教学科	4	100	33	466	学士（仏教学）	0.92	平成22	同上	
	社会共生学部	4	195	3年次 2	784		0.91	令和2	同上	
	公共政策学科	4	130	－	520	学士（公共政策学）	0.89	令和2	同上	
	社会福祉学科	4	65	2	264	学士（社会福祉学）	0.94	令和2	同上	
	人間学部	4	－	3年次 －	－		－	平成5	同上	※令和2年度より学生募集停止（社会福祉学科、人間環境学科、教育人間学科）
	社会福祉学科	4	－	－	－	学士（社会福祉学）	－	平成5	同上	
	人間環境学科	4	－	－	－	学士（人間環境学）	－	平成23	同上	
	教育人間学科	4	－	－	－	学士（教育人間学）	－	平成23	同上	
	心理社会学部	4	230	3年次 4	928		1.17	平成28	同上	
	人間科学科	4	120	2	484	学士（人間科学）	1.07	平成28	同上	
	臨床心理学科	4	110	2	444	学士（臨床心理学）	1.27	平成28	同上	
	文学部	4	295	3年次 6	1192		1.10	平成15	同上	
	人文学科	4	65	2	265	学士（人文学）	1.12	平成22	同上	
	日本文学科	4	70	2	282	学士（日本文学）	1.15	平成27	同上	
	歴史学科	4	160	2	645	学士（歴史学）	1.07	平成15	同上	
	表現学部	4	205	3年次 －	820		1.12	平成22	同上	
	表現文化学科	4	205	－	820	学士（表現文化）	1.12	平成22	同上	
	地域創生学部	4	100	3年次 －	400		0.99	平成28	同上	
	地域創生学科	4	100	－	400	学士（経済学）	0.99	平成28	同上	

	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	仏教学研究科									
	仏教学専攻									
	博士前期課程	2	30	－	60	修士（仏教学）	0.75	平成13	東京都豊島区西巣鴨三丁目20番1号	
	博士後期課程	3	7	－	21	博士（仏教学）	0.76	平成13	同上	
	人間学研究科									
	社会福祉学専攻									
	修士課程	2	5	－	10	修士（社会福祉学）	0.60	平成13	同上	
	臨床心理学専攻									
	修士課程	2	18	－	36	修士（臨床心理学）	0.97	平成13	同上	
	人間科学専攻									
	修士課程	2	3	－	6	修士（人間科学）	0.00	平成13	同上	
	福祉・臨床心理学専攻									
	博士後期課程	3	3	－	9	博士（人間学）	0.00	平成13	同上	
	文学研究科									
	宗教学専攻									
	博士前期課程	2	5	－	10	修士（文学）	1.40	昭和27	同上	
	博士後期課程	3	2	－	6	博士（文学）	0.67	昭和32	同上	
	史学専攻									
	博士前期課程	2	10	－	20	修士（文学）	0.95	昭和54	同上	
	博士後期課程	3	2	－	6	博士（文学）	0.67	昭和54	同上	
	国文学専攻									
	博士前期課程	2	3	－	6	修士（文学）	0.83	昭和27	同上	
	博士後期課程	3	2	－	6	博士（文学）	0.00	昭和32	同上	
	比較文化専攻									※令和3年度より学生募集停止（比較文化専攻（修・博））
	博士前期課程	2	－	－	－	修士（文学）	－	平成9	同上	
	博士後期課程	3	－	－	－	博士（文学）	－	平成11	同上	

附属施設の概要	名　称　：　綜合仏教研究所 目　的　：　本学の設立理念である仏教精神の体現を基盤として、仏教とその文化に関する研究及び有為な研究者の育成を行う。 所在地　：　東京都豊島区西巣鴨３丁目20番1号 設置年月：　昭和32年4月 規模等　：　259.26㎡（教育・研究棟の一部）	
	名　称　：　カウンセリング研究所 目　的　：　本学の設立理念である仏教精神の体現を基盤として、カウンセリングの理論・技法及びその実践に関する教育と研究を行う。 所在地　：　東京都豊島区西巣鴨３丁目20番1号 設置年月：　昭和38年4月 規模等　：　296.13㎡（教育・研究棟の一部）	
	名　称　：　地域構想研究所 目　的　：　地域課題解決のための基礎研究を行い、地域創生のための新しい価値を「共創」することによって地域や社会に貢献する。 所在地　：　東京都北区滝野川６丁目2番3号 設置年月：　平成26年10月 規模等　：　511.28㎡（研究棟の一部）	
	名　称　：　エンロールメント・マネジメント研究所 目　的　：　学生の入学前から卒業後までの一貫した情報を収集・分析・提供し、教育・研究・社会貢献等の企画・立案・支援を行い、本学のみならず大学教育全体に貢献する。 所在地　：　東京都豊島区西巣鴨３丁目20番1号 設置年月：　平成29年10月 規模等　：　62.03㎡（本部棟の一部）	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部人間科学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
第Ⅰ類科目			人間の探究Ⅰ	1①		2			○								18	共同
			人間の探究Ⅱ	1②		2			○								18	共同
			人間の探究Ⅲ	1④		2			○								18	共同
			小計（3科目）	－	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	18	
			社会の探究Ⅰ	1①		2			○								16	共同
			社会の探究Ⅱ	1②		2			○								16	共同
			社会の探究Ⅲ	1④		2			○								16	共同
			小計（3科目）	－	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	16	
			自然の探究Ⅰ	1①		2			○								20	共同
			自然の探究Ⅱ	1②		2			○								20	共同
			自然の探究Ⅲ	1④		2			○								20	共同
			小計（3科目）	－	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	20	
			総合英語Ⅰ	1①		1				○							16	メディア（一部）
			総合英語Ⅱ	1②		1				○							16	メディア（一部）
			総合英語Ⅲ	1④		1				○							16	メディア（一部）
			小計（3科目）	－	－	3	0	0	－			0	0	0	0	0	16	
			データサイエンスⅠ	1①		1				○							15	共同
			データサイエンスⅡ	1②		1				○							15	共同
			データサイエンスⅢ	1④		1				○							15	共同
			データサイエンスⅣ	2①		1				○							17	共同
			データサイエンスⅤ	2②		1				○							17	共同
			データサイエンスⅥ	2④		1				○							17	共同
			小計（6科目）	－	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	17	
			リーダーシップⅠ	2①		1				○							6	共同
			リーダーシップⅡ	2③		1				○							28	共同
			リーダーシップⅢ	2④		1				○							28	共同
			小計（3科目）	－	－	3	0	0	－			0	0	0	0	0	39	
第Ⅱ類科目	全学共通		学融合ゼミナールⅠ	2①②		2			○			2	1	1			5	共同・オムニバス
			学融合ゼミナールⅡ	3①②		2			○			5	2				3	共同・オムニバス
			小計（2科目）	－	－	4	0	0	－			5	2	1	0	0	8	
	学部共通部門		人間学概論	1③	○	2			○			5	2				7	共同・オムニバス
			社会政策論	2④			2		○								1	
			人間学特講	2①			2		○			1						
			小計（3科目）	－	－	2	4	0	－			6	2	0	0		7	
	基礎部門		基礎ゼミナールⅠ	1③④	○	2			○			5	1	1				
			基礎ゼミナールⅡ	1①②	○	2			○			6	1					
			心理学の基礎	1①②	○		4		○			1						
			社会学の基礎	1③④	○		4		○				1					
			身体科学の基礎	1③④	○		2		○			1						
			小計（5科目）	－	－	4	10	0	－			7	2	1	0	0	0	
	研究法部門	基礎科目	心理学研究法A	1③④	○		2		○			1						
			心理学研究法B	2①②	○		2		○			1						
			社会調査法A	1①②	○		2		○			1						
			社会学の理論と方法	2①②	○		2		○				1					
			小計（4科目）	－	－	0	8	0	－			3	1	0	0	0	0	
		基礎演習科目	心理学実験基礎演習Ⅰ	2①②			2			○		3	1				3	
			心理学実験基礎演習Ⅱ	2③④			2			○		3	1				4	
			社会調査演習Ⅰ	2①②			2			○		2	1	1			1	
			社会調査演習Ⅱ	2③④			2			○		2		2			1	
			身体科学実験基礎演習	2①②			2			○		1						
			小計（5科目）	－	－	0	10	0	－			6	2	1	0	0	6	
		展開科目	心理学研究法C	2③			2		○				1					
			社会調査法B	1③			2		○					1				
			社会調査法C	2②			2		○								1	
			社会統計学	3④			2		○			1						メディア
			多変量解析入門	3①			2		○					1				
			質的社会調査法	3②			2		○				1					
			小計（6科目）	－	－	0	12	0	－			5	2	2	0	0	6	

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部人間科学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
第Ⅱ類科目	専門部門	人間発達科目（A群）	生命科学	2④			2		○								1	
			身体活動の科学	2①			2		○			1						
			発育発達と運動	3②			2		○			1						
			脳と心	2②			2		○			1						
			基礎心理学	2③			2		○				1					
			心の認知科学	2①			2		○				1					
			認知社会心理学	3④			2		○				1					
			感情心理学	3③			2		○			1						
			生涯発達心理学	2②			2		○			1						
			親と子の発達心理学	3④			2		○			1						
			生と死の社会学	2④			2		○				1					
			ライフコースの社会学	2③			2		○			1						
			健康心理学	3③			2		○								1	
			動物と人間の心理学	2④			2		○								1	
			人間発達特講A	2④			2		○								1	
			人間発達特講B	2①			2		○								1	
			小計（16科目）	－	－	0	32	0	－			4	1	1	0	0	5	
第Ⅱ類科目	専門部門	現代社会生活科目（B群）	社会心理学	2①			2		○			1						
			コミュニケーションの心理学	1③			2		○			1						
			ジェンダーの社会学	2②			2		○								1	
			現代社会論	2②			2		○				1					
			親密圏と家族の社会学	2①			2		○			1						
			生活環境の社会学	2④			2		○			1						
			都市と地域の社会学	2③			2		○			1						
			職場の社会学	2③			2		○			1						
			仕事の社会学	3①			2		○			1						
			文化の社会学	2①			2		○					1				
			情報と社会	2④			2		○			1						
			出版文化論	2③			2		○				1					
			社会問題の社会学	3②			2		○								1	
			現代社会生活特講A	2②			2		○								1	メディア
			現代社会生活特講B	2④			2		○								1	
			小計（15科目）	－	－	0	30	0	－			4	1	2	0	0	2	
		演習科目	人間科学専門演習Ⅰ	3①②	○	4				○		5	2	2				
			人間科学専門演習Ⅱ	3③④	○	4				○		5	2	2				
			小計（2科目）	－	－	8	0	0	－			5	2	2	0	0	0	
			卒業論文	4	○	8				○		5	2	2				
			小計（1科目）	－	－	8	0	0	－			5	2	2	0	0	0	

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部人間科学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
第Ⅲ類科目	アントレプレナーシップ育成教育プログラム	超スマート社会論	2①～②			2		○								1	メディア
		新共生社会論	2①～②			2		○								1	メディア
		地域人イズム論	2③～④			2		○								1	メディア
		アントレプレナーシップ論	2③～④			2		○								1	メディア
		ロジカルシンキング	3①②④・4①②			2		○								2	
		データ分析技法	3①②④・4①②			2		○								1	
		プログラミングの基礎	3①②④・4①②			2		○								1	
		ファイナンスの基礎	3①②④・4①②			2		○								1	
		財務会計の基礎	3①②④・4①②			2		○								2	
		マーケティングの基礎	3①②④・4①②			2		○								2	
		言語表現技術Ⅰ	3①②④・4①②			2		○								1	
		言語表現技術Ⅱ	3①②④・4①②			2		○								1	
		情報表現技術Ⅰ	3①②④・4①②			2		○								1	
		情報表現技術Ⅱ	3①②④・4①②			2		○								1	
		キャリア探究A	3①②④・4①②			2		○								1	
		キャリア探究B	3①②④・4①②			2		○								1	
		キャリアデザインA	3①②④・4①②			2		○								4	
		キャリアデザインB	3①②④・4①②			2		○								3	
		コミュニケーション	3①②④・4①②			2		○								2	
		リーダーシップ	3①②④・4①②			2		○								1	
		ファシリテーション	3①②④・4①②			2		○								3	
		プレゼンテーション	3①②④・4①②			2		○								3	
		マネジメント	3①②④・4①②			2		○								1	
		ビジネス英語	3①②④・4①②			2			○							1	
		ビジネス中国語	3①②④・4①②			2			○							1	
		マイスターワークショップ	3・4			6			○							15	
		マイスターフィールドワーク	3・4			6			○							1	
		マイスターインターンシップ	3・4			6				○						1	
		短期留学	3・4			6				○						1	
		海外インターンシップ	3・4			6				○						1	
		小計（30科目）	－	－	0	80	0	－			0	0	0	0	0	46	
合計（110科目）			－	－	56	186	0	－			8	2	1	0	0	134	

学位又は称号	学士（人間科学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係、文学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
第Ⅰ類科目30単位以上、第Ⅱ類科目70単位以上（必修科目を含む）、第Ⅲ類科目24単位以上、合計124単位以上修得すること。第Ⅲ類科目のうち、超スマート社会論、新共生社会論、地域人イズム論、アントレプレナーシップ論から4単位選択必修。ただし、第Ⅱ類科目として履修した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。 基礎部門の選択科目のうち、心理学の基礎、社会学の基礎、身体科学の基礎から6単位を選択必修とする。 研究法部門基礎科目のうち、6単位以上選択必修。専門分野人間発達科目（A群）・現代社会生活科目（B群）から各10単位以上、かつ、A群とB群から合計32単位以上選択必修とする。 履修科目の登録の上限：12単位（1クォーター）	１学年の学期区分	4学期
	１学期の授業期間	7週
	１時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部社会福祉学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
第Ⅰ類科目	人間の探究Ⅰ	1①		2			○								18	共同
	人間の探究Ⅱ	1②		2			○								18	共同
	人間の探究Ⅲ	1④		2			○								18	共同
	小計（3科目）	－	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	18	
	社会の探究Ⅰ	1①		2			○								16	共同
	社会の探究Ⅱ	1②		2			○								16	共同
	社会の探究Ⅲ	1④		2			○								16	共同
	小計（3科目）	－	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	16	
	自然の探究Ⅰ	1①		2			○								20	共同
	自然の探究Ⅱ	1②		2			○								20	共同
	自然の探究Ⅲ	1④		2			○								20	共同
	小計（3科目）	－	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	20	
	総合英語Ⅰ	1①		1				○							16	メディア（一部）
	総合英語Ⅱ	1②		1				○							16	メディア（一部）
	総合英語Ⅲ	1④		1				○							16	メディア（一部）
	小計（3科目）	－	－	3	0	0	－			0	0	0	0	0	16	
	データサイエンスⅠ	1①		1				○							15	共同
	データサイエンスⅡ	1②		1				○							15	共同
	データサイエンスⅢ	1④		1				○							15	共同
	データサイエンスⅣ	2①		1				○							17	共同
	データサイエンスⅤ	2②		1				○							17	共同
	データサイエンスⅥ	2④		1				○							17	共同
	小計（6科目）	－	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	17	
	リーダーシップⅠ	2①		1				○							6	共同
	リーダーシップⅡ	2②		1				○							28	共同
	リーダーシップⅢ	2④		1				○							28	共同
	小計（3科目）	－	－	3	0	0	－			0	0	0	0	0	39	

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部社会福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
第Ⅱ類科目	全学部共通	学融合ゼミナールⅠ	2①②		2			○			2					1	オムニバス
		学融合ゼミナールⅡ	3①②		2			○			5	1				1	オムニバス
		小計（2科目）	－	－	4	0	0	－			7	1	0	0	0	2	
	学部共通科目	人間学概論	1③	○	2			○			6	1				7	共同・オムニバス
		社会政策論	2④	○		2		○			1						
		人間学特講	2①			2		○								1	
		小計（3科目）			2	4		－			6	1	0	0	0	8	
	基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	1①②	○	2			○			3	1					
		基礎ゼミナールⅡ	1③④	○	2			○			3	1					
		社会福祉入門	1①	○	2			○			1						
		社会福祉原論Ⅰ	1④	○	2			○			1						
		仏教社会福祉論	1④		2			○								1	
		ソーシャルワーク論Ⅰ	1②	○	2			○			1						
		小計（6科目）	－	－	12	0	0	－			4	1	0	0	0	1	
	専門部門	社会保障論Ⅰ	1③			2		○			1						
		地域福祉論Ⅰ	1③			2		○			1					1	
		心理学	1③			2		○								1	
		社会福祉基礎実践	2①②			2		○			3						
		インクルーシブデザインゼミナールⅠ	2①②			2		○			1						
		ソーシャルワーク論Ⅱ	1③			2		○			1						
		ソーシャルワーク論Ⅲ	2②			2		○				1					
		ソーシャルワーク論Ⅳ	2③			2		○			1						
		ソーシャルワーク論Ⅴ	3④			2		○			1						
		ソーシャルワーク論Ⅵ	4①②			2		○			1						
		社会福祉原論Ⅱ	2④			2		○			1						
		社会保障論Ⅱ	2④			2		○								1	
		地域福祉論Ⅱ	2④			2		○			1						
		社会学	2④			2		○								1	
		医学概論	2④			2		○								1	
		医療福祉論	2①②			2		○								1	
		公的扶助論	2④			2		○								1	
		児童福祉論	2②			2		○			1						
		高齢者福祉論	2②			2		○			1						
		障害者福祉論	2①			2		○			1						
		司法福祉論	3①			2		○								1	
		権利擁護を支える法制度	3④			2		○								1	
		福祉経営論	3④			2		○								1	
		社会福祉調査論	3④			2		○								1	
		社会福祉の歴史	3①②			2		○								1	
		医療ソーシャルワーク論	3④			2		○			1						隔年休講
		エンド・オブ・ライフケア論	2④			2		○								1	
		コミュニティソーシャルワーク論	3④			2		○			1						
		インクルーシブデザイン論	2①			4		○			1					1	
		スクールソーシャルワーク論	2②			2		○								1	
		精神保健学	2通			4		○								1	隔年休講
		精神保健福祉の原理①	2②			2		○								1	隔年休講
		精神保健福祉の原理②	2④			2		○								1	
		精神疾患とその治療	3①②			4		○								1	
		精神保健福祉制度論	2②			4		○				1					
		精神障害リハビリテーション論	3①②			2		○								1	
		ソーシャルワークの理論と方法（専門）	4①②			2		○								1	
		社会福祉特講Ⅰ	2休			2		○					1				
		社会福祉特講Ⅱ	3休			2		○					1				
		社会福祉特講Ⅲ	4休			1		○					1				
		小計（40科目）	－	－	0	87	0	－			6	2	1	0	0	16	

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部社会福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
第Ⅱ類科目	実習・演習部門	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2③④			2			○		3						
		インクルーシブデザインゼミナールⅡ	2③④			2			○		1						
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3通			4			○		3	1					
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	4通			2			○		1						
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	1③			2			○		3	1					
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2①②			2			○		1	1				2	隔年休講
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	2③④			2			○		2					2	
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	3①②			2			○		1					3	
		ソーシャルワーク演習Ⅴ	4①②			2			○		3	1				3	
		ソーシャルワーク演習Ⅵ	4①			2				○	1						隔年休講
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	2休			2				○	3						隔年休講
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	3休			4				○	3	1					
		ソーシャルワーク実習Ⅲ	2休			2				○	2						
		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3④			2			○		1						
		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	3通			4			○			1					
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	3休			2				○	1						
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	3休			3				○		1					
		精神保健福祉援助演習Ⅰ	3④			2			○							1	
		精神保健福祉援助演習Ⅱ	4①②			2			○							1	
		精神保健福祉援助演習Ⅲ	4③④			2			○		1						
		小計（20科目）	－	－	0	47	0		－		6	2	0	0	0	6	
	応用部門	プロジェクト研究Ⅰ	3①②	○	2				○		7	1					
		プロジェクト研究Ⅱ	3③④	○	2				○		7	1					
		プロジェクト研究Ⅲ	4①②	○	2				○		6	1					
		プロジェクト研究Ⅳ	4③④	○	2				○		6	1					
		インターンシップ	3休			2			○		1						
		小計（5科目）	－	－	8	2	0		－		7	2	0	0	0	0	
		卒業研究	4通	○		8			○		6	1					
		卒業論文	4通	○		8			○		6	1					
		小計（2科目）	－	－	0	16	0		－		6	1	0	0	0	0	

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部社会福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
第Ⅲ類科目	アントレプレナーシップ育成教育プログラム	超スマート社会論	2①～②			2		○								1	メディア
		新共生社会論	2①～②			2		○								1	メディア
		地域人イズム論	2③～④			2		○								1	メディア
		アントレプレナーシップ論	2③～④			2		○								1	メディア
		ロジカルシンキング	3①②④・4①②			2		○								2	
		データ分析技法	3①②④・4①②			2		○								1	
		プログラミングの基礎	3①②④・4①②			2		○								1	
		ファイナンスの基礎	3①②④・4①②			2		○								1	
		財務会計の基礎	3①②④・4①②			2		○								2	
		マーケティングの基礎	3①②④・4①②			2		○								2	
		言語表現技術Ⅰ	3①②④・4①②			2		○								1	
		言語表現技術Ⅱ	3①②④・4①②			2		○								1	
		情報表現技術Ⅰ	3①②④・4①②			2		○								1	
		情報表現技術Ⅱ	3①②④・4①②			2		○								1	
		キャリア探究A	3①②④・4①②			2		○								1	
		キャリア探究B	3①②④・4①②			2		○								1	
		キャリアデザインA	3①②④・4①②			2		○								4	
		キャリアデザインB	3①②④・4①②			2		○								3	
		コミュニケーション	3①②④・4①②			2		○								2	
		リーダーシップ	3①②④・4①②			2		○								1	
		ファシリテーション	3①②④・4①②			2		○								3	
		プレゼンテーション	3①②④・4①②			2		○								3	
		マネジメント	3①②④・4①②			2		○								1	
		ビジネス英語	3①②④・4①②			2			○							1	
		ビジネス中国語	3①②④・4①②			2			○							1	
		マイスターワークショップ	3・4			6			○							15	
		マイスターフィールドワーク	3・4			6			○							1	
		マイスターインターンシップ	3・4			6				○						1	
		短期留学	3・4			6				○						1	
		海外インターンシップ	3・4			6				○						1	
		小計（30科目）	－	－	0	80	0	－			0	0	0	0	0	46	
合計（129科目）			－	－	56	236	0	－			7	1	1	0	0	151	

学位又は称号	学士（社会福祉学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関連

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
第Ⅰ類科目30単位以上、第Ⅱ類科目70単位以上（必修科目を含む）、第Ⅲ類科目24単位以上、合計124単位以上修得すること。第Ⅲ類科目のうち、超スマート社会論、新共生社会論、地域人イズム論、アントレプレナーシップ論から4単位選択必修。ただし、第Ⅱ類科目として履修した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。 卒業研究・卒業論文は、8単位選択必修とする。履修科目の登録の上限：12単位（1クォーター）	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	7週
	1時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間学部人間科学科）

区科 分目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅰ類科目	人間の探究Ⅰ		「人間の探究」は３クォーター（合計６単位：100分授業×週２回）にわたって開講する。第1クォーターに開講される「人間の探究Ⅰ」は、人間が蓄積してきた知の総体である「文化」（文学・歴史・思想・心理・宗教・芸術など）について学びながら、世界や日本、地域、そして他者・自己を観る視点を養うとともに、自らの生き方について考えを深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。講義とグループワークのなかで、担当教員が設定したテーマに関する基礎的な知識を身につけることをめざす。 また、同時に講義とグループワークのなかで他者と対話することを通じて、大学で学ぶ仲間をつくり、自己理解を深め、自ら学ぶ姿勢を整える。「人間の探究Ⅰ」では、高校の学びから大学の学びへの転換を図るため、今の自分の現状を把握する。	共同
	人間の探究Ⅱ		第2クォーターに開講する。「人間の探究Ⅰ」に引き続いて、人間が蓄積してきた知の総体である「文化」（文学・歴史・思想・心理・宗教・芸術など）について学びながら、世界や日本、地域、そして他者・自己を観る視点を養うとともに、自らの生き方について考えを深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。「人間の探究Ⅰ」で学んだスキルや知識を活用しつつ、担当教員が設定したテーマについて理解を深めることをめざす。最終的には、これまでの学びや自己理解をふまえて、「大学で学ぶことの意味」をテーマとしたレポートを作成する。	共同
	人間の探究Ⅲ		第4クォーターに開講する。「人間の探究Ⅱ」に引き続いて、人間が蓄積してきた知の総体である「文化」（文学・歴史・思想・心理・宗教・芸術など）について学びながら、世界や日本、地域、そして他者・自己を観る視点を養うとともに、自らの生き方について考えを深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。これまでの経験や学びをふまえて、人間というテーマについてさらに見聞や洞察を広げ深めるとともに、それらを統合することをめざす。最終的には、自分が世界や社会、他者とどうつながり貢献していくかを考え、「未来計画書」を作成する。	共同
	社会の探究Ⅰ		「社会の探究」は３クォーター（６単位：100分授業×週２回）にわたって開講する。第1クォーターに開講する「社会の探究Ⅰ」は、変動の激しい現代社会をさまざまな観点から理解するとともに、私たちが他者と協働しながら、いかに理想的な社会を実現していくかについて学ぶことを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。授業を通して、社会の課題を発見するために必要な情報を収集・分析する力、本質を見極めて解決策を考える力を養うとともに、他者に伝える表現力、責任をもって課題に取り組む主体性を身につけることをめざす。 また「社会の探究Ⅰ」では、「社会の探究Ⅱ」で展開される「ミニプロジェクト」に取り組むための助走期間と位置付ける。グループワークを通じて現代社会の課題を「自分ごと」として捉える視座を身につけ、プレゼンテーションのスキルを学びながら、仲間と協働する態勢を整える。	共同
	社会の探究Ⅱ		第2クォーターに開講する。「社会の探究Ⅰ」に引き続いて、変動の激しい現代社会をさまざまな観点から理解するとともに、私たちが他者と協働しながら、いかに理想的な社会を実現していくかについて学ぶことを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。人権や経済という切り口から現代社会の課題に「自分ごと」として関わる態度を身につけるとともに、地域（local）の視座に立った「ミニプロジェクト」をおこなう。他者との協働、情報の収集、課題の発見・問題の解決、プレゼンテーションに取り組むことで、チームづくりに必要な力を深める。	共同
	社会の探究Ⅲ		第4クォーターに開講する。「社会の探究Ⅱ」に引き続いて、変動の激しい現代社会をさまざまな観点から理解するとともに、私たちが他者と協働しながら、いかに理想的な社会を実現していくかについて学ぶことを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。これまでの学びを統合しながら、地域（local）における課題に「自分ごと」としてかかわり、その解決策をより多角的な観点から考察を深めることをめざす。具体的には、チームの仲間とともに「ファイナルプロジェクト」を完成させて、プレゼンテーションをおこなう。	共同
	自然の探究Ⅰ		「自然の探究」は３クォーター（６単位：100分授業×週２回）にわたって開講する。第1クォーターに開講する「自然の探究Ⅰ」は、地球環境をめぐるさまざまな問題を多角的に検討するとともに、自然環境と人間活動とのかかわりについて洞察を深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。 また「自然の探究」では、論理的な思考力を涵養し、大学での学びに必要となる文章作成力を身につけることをめざす内容も展開される。「自然の探究Ⅰ」では思考や表現・表記について学ぶとともに、大学のレポートと高校までの感想文との相違など、レポート作成上の基礎について理解を深める。	共同
	自然の探究Ⅱ		第2クォーターに開講する。「自然の探究Ⅰ」に引き続いて、地球環境をめぐるさまざまな問題を多角的に検討するとともに、自然環境と人間活動とのかかわりについて洞察を深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。「自然の探究Ⅱ」では、担当教員が設定したテーマについて理解を深めるとともに、レポート作成のトレーニングに力を入れる。とくに、発想力や読解力といったレポート・論文を書くための基礎能力を身につけることをめざす。	共同
	自然の探究Ⅲ		第4クォーターに開講する。「自然の探究Ⅱ」に引き続いて、地球環境をめぐるさまざまな問題を多角的に検討するとともに、自然環境と人間活動とのかかわりについて洞察を深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。「自然の探究Ⅲ」はこれまでの学びの統合が果たされる。つまり自然環境と人間活動とのかかわりについての知識と、論理的な思考力や文章作成力にもとづいて、一年間の学びの集大成としてアカデミックエッセイを執筆することをめざす。	共同

授　業　科　目　の　概　要 （人間学部人間科学科）				
区科 分目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅰ類科目	総合英語Ⅰ		「総合英語」では、年間を通して一貫した方針の下、対面授業とオンデマンド型授業を組み合わせることによって、総合的な英語力の育成を目的とする。 対面授業では、多様なトピックの中から語彙や表現を学び、ペアワークやグループワーク、発表といった活動を通じてコミュニケーションに必要な英語力を身につけるとともに、大学生として必要なリーディング力の強化を図る。 eラーニングシステムを使ったオンデマンド型授業では、語彙や文法、リスニング・リーディング演習をおこない、自律的な英語学習を促しながら情報収集や意見の発信に必要な英語力を強化する。	メディア（一部）
	総合英語Ⅱ		「総合英語」では、年間を通して一貫した方針の下、対面授業とオンデマンド型授業を組み合わせることによって、総合的な英語力の育成を目的とする。 対面授業では、多様なトピックの中から語彙や表現を学び、ペアワークやグループワーク、発表といった活動を通じてコミュニケーションに必要な英語力を身につけるとともに、大学生として必要なリーディング力の強化を図る。 eラーニングシステムを使ったオンデマンド型授業では、語彙や文法、リスニング・リーディング演習をおこない、自律的な英語学習を促しながら情報収集や意見の発信に必要な英語力を強化する。	メディア（一部）
	総合英語Ⅲ		「総合英語」では、年間を通して一貫した方針の下、対面授業とオンデマンド型授業を組み合わせることによって、総合的な英語力の育成を目的とする。 対面授業では、多様なトピックの中から語彙や表現を学び、ペアワークやグループワーク、発表といった活動を通じてコミュニケーションに必要な英語力を身につけるとともに、大学生として必要なリーディング力の強化を図る。 eラーニングシステムを使ったオンデマンド型授業では、語彙や文法、リスニング・リーディング演習をおこない、自律的な英語学習を促しながら情報収集や意見の発信に必要な英語力を強化する。	メディア（一部）
	データサイエンスⅠ		演習方式で行う。「データサイエンス」とはデータを用いて新たな科学的および社会に有益な知見を引き出そうとするアプローチのことであり、もはやデータサイエンスがなければ世の中が成り立たないといっても過言ではない。「データサイエンス」科目では、自らとデータサイエンスとつなぐ道を開くために、データとは何なのか、データを活用するとはどういうことなのかを学ぶ講義を開催する。 データサイエンスⅠでは、データサイエンスとは何かを学び、更に身近な事例や社会で活用されている事例を通してデータを活用するスキルの必要性を理解すると同時に統計学の基礎知識を習得する。またPCやデータを利用する際に必要となる情報リテラシーについても学ぶ。演習では統計の基礎知識と連動してExcelの基本操作を習得する。	共同
	データサイエンスⅡ		演習方式で行う。データサイエンスⅡでは、世の中におけるデータサイエンスの現状や及ぼす影響等について幅広く学び、どのような手段、手法、仕組みを通じて有効に活用できるかを学ぶ。さらにはAIについて、体験型のワークを通して、AI活用のイメージを明確にしたうえで、AI可能性や面白さを知り、AIの今後の活用の可能性について理解を深める。演習では統計学の基礎知識からのデータの扱い方、データのばらつきと傾向の表し方、さらにはグラフの読み取りと表現方法をExcelスキル習得と合わせて学ぶ。	共同
	データサイエンスⅢ		演習方式で行う。データサイエンスⅢでは、tableauを活用してデータを探索的に分析し、わかりやすく可視化して伝達する基本スキルを習得すると同時に、データ分析から課題解決につながる課題抽出力の基礎を学ぶ。さらにはBIツールのベースとして使われているデータベースの仕組みやデータの型、データ属性なども含めて学ぶ。	共同
	データサイエンスⅣ		演習方式で行う。データサイエンスⅣの「問題解決型ミッション」やデータサイエンスⅥの「価値創造型ミッション」に取り組む前提として、tableauを活用して目的に合致した実用的なチャート、適切なグラフ表現、さらには効果的なダッシュボード作成を目指す。tableauの演習ではデータに対して適切なグラフの種類の選び方と各グラフの留意点を習得し、基本的なビジュアライゼーションが作成するスキルを身につける。また世の中でAIが活用されている事例を幅広く知り、常に進化する技術の動向についても関心と理解を深めた上で、AI活用社会の未来について理解と想像力を高める。	共同
	データサイエンスⅤ		演習方式で行う。「問題解決型ミッション形式」にて社会の課題解決力の習得を目指す。「問題解決」とは「理想の姿」を実現するために「現実とのギャップ」を埋めることである。企業のデータを活用し、企業の抱える問題に対してどのように解決を図るのかを、データ分析から仮説を導き出し、さらには解決策の提案まで行う力を身につける。tableauの演習では複数テーブルの扱いを含むデータの整形および計算式における条件分岐の記述、さらに表計算を活用したビジュアライズを習得する。	共同
	データサイエンスⅥ		演習方式で行う。「価値創造型ミッション形式」にて社会の課題解決力の習得を目指す。企業のデータと合わせてオープンデータも活用して、複数のデータ分析から多面的な課題抽出を行い、課題の発見と解決策の構築について、演習を通じて学び、提言につながる学修をおこなう。Tableauの演習ではダッシュボードをインタラクティブにする方法を学ぶ他、聴き手にスピーディに正しく情報を伝達するために必要な考え方やスキルを習得する。 データサイエンスⅥ終了時には様々なデータからの統計分析や論理的な思考スキルを身に付け、課題の発見や解決、社会への価値創造につながる仮説を構築する力を習得する。	共同
	リーダーシップⅠ		演習方式で行う。適宜、議論・討論やプレゼンテーションを交え、アクティブラーニングで実施する。現代日本社会には地域活性化や福祉の充実、自然の再生など、取り組むべき多くの課題がある。これらの課題にはいくつもの要因が複雑に絡まり、その解決・実現には人と人とが多様なアイディアをもち寄り、協働することが必要となる。こうした現代社会を生き、自身の出会う課題と向かい合ううえで注目されているのが、リーダーシップという考え方である。この科目では、こうした「リーダーシップ」についてワークを交えながら経験的に学び、履修者それぞれが自身のリーダーシップ観を知り、またそれを再構成することを目的にすえる。	共同

授業科目の概要 （人間学部人間科学科）					
区科 分目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅰ類科目		リーダーシップⅡ		演習方式で行う。適宜、議論・討論やプレゼンテーションを交え、アクティブラーニングで実施する。大学卒業後、どのように自分が社会と接続していくのか、意識を高めていく大事な時期である。自分らしいリーダーシップとは何かをさらに深め、社会からの求めに自らがいかに応えるかについてよく考え、社会にエントリーする準備を整えることが、この授業の目的である。 リーダーシップⅠを通して深めた自己理解を基盤として、社会に接続していく準備を行う。そのために、社会人として身につけておくべきマナーや学力を理解し、社会で働くことの意義について考える。また、これまでの学業や生活を振り返り、自身が取り組んできたことやこれから挑戦したいことを整理し、社会に向けて自分を表現する準備を行う。	共同
		リーダーシップⅢ		演習方式で行う。適宜、議論・討論やプレゼンテーションを交え、アクティブラーニングで実施する。自らの強みを知り、目指すリーダーシップ像に近づいていくために、今後の大学生活をいかに過ごしていくのかを考える機会とし、リーダーシップⅡに引き続いて、社会にエントリーする準備を展開させることがこの授業の目的である。 リーダーシップⅠ・Ⅱで取り組んだ自己分析（自分が目指すリーダーシップ像はどのようなものなのか、自分はどのような適性や能力を持っていて、どのような目標や夢を目指すのか）を踏まえて、現時点で興味のある進路について研究を行うことで、卒業後の進路や職業を主体的に考え、キャリアを形成していくことを目指す。	共同
第Ⅱ類科目	全学共通部門	学融合ゼミナールⅠ		講義形式で行う。複数のディシプリン（分野・領域）の連携や交流、融合により、異なる分野の専門知を横断的にとらえ、新たな知として形にする力の育成を目指し、クロスディシプリン（複数の分野・領域の連携と融合）の実現を目的とする。この授業では、現代日本における地域で生じている諸事象および諸課題を学融合的な観点から理解する。各回の講義は社会学を専門とする人間科学科の教員と公共政策学科の教員が担当する。社会学の観点からは、地域をみるうえで重要なキーワードを実際の地域の事例とともに学ぶ。公共政策の観点からは、観光による地域活性化と現代日本における地域の課題（医療政策・地方自治・人口の変化）について学ぶ。 （オムニバス方式／全14回） （13　澤口恵一/　3回） ①授業の概要、担当者について説明したうえで、この授業で取り上げる「地域」とは何か、日本の地域の現状と課題を理解する必要な基本的な事項について概説する。 ⑬アカデミックレポート作成の準備としてこれまでの授業をふまえた俯瞰的な概説を教員がしたうえで課題を呈示する。学生は少人数のグループで議論をしたうえで、グループ内での意見をまとめ提出する。 ⑭アカデミックレポート作成の準備として、前回のグループワークの成果を共有し教員から問題提起を行う。学生は少人数のグループで議論をしたうえで、グループ内での意見をまとめ提出する。 （2　荒川康/　2回） ②日常のありふれた風景も社会的に作られていることを分析的に明らかにし、「風景を読む」ことの実践的意味について考えていく。 ③風景が記号化されていく様相について説明し、記号化と地域の歴史がどのようにかかわるのかについて考えていく。 （16　道下洋夫/ 1回） ④公共政策とは何か、その中で最も重要なジャンルである医療政策について、どのような制度設計がなされ、どのように運用されているか、そしてどのような課題があるかについて概説する。 （13　柏木千春/　1回） ⑤観光マーケティングの視点から地域の魅力を発見、経験商品化、情報伝達、関係づくりを行う一連の過程について事例を交えて解説する。 （15　村橋克則/　1回） ⑥観光振興（交流人口の増加）が地域にもたらす効果および観光産業の持つ特性について整理した上で、持続可能な地域づくりに観 光を上手に活用するための視点・方策について考えるます。国が推進し、各地で主流となりつつある「観光地経営」についても触れる。 （12　尾西雅博/ 1回） ⑦地方自治の仕組みについて一通り知識を獲得し、地方自治に関する課題を解決するための手段について考察する能力を培う。具体的には、①地方自治の意義、②地方公共団体の種類と事務、③地方公共団体の組織と機能、④地方公共団体の財政、⑤住民の監視と参加、⑥国と地方公共団体の関係について学修し方分権のこれまでの動きについても基礎的な知見を得る。 （14　高原正之/ 1回） ⑧日本の地域労働市場の現状と、分析のための理論について概説する。具体的には、最初に都道府県別の労働者数、賃金の状況を概観し、労働者の地域間移動、将来の労働力の供給に影響する地域における人口の自然増減、出生と死亡の現状、過疎・過密と東京・首都圏への一極集中の問題、政策課題を取り上げる。 （11　木村豊/ 2回） ⑨社会学における「集合的記憶」の理論にもとづきながら、地域に関わる問題を社会学の観点からどのように捉えることができるのかについて取り上げる。 ⑩前回取り上げた「集合的記憶」の理論にもとづきながらも、より具体的な事例を通して、地域において「記憶」がどのような役割を果たしているのかについて取り上げる。 （10　河合恭平/ 2回） ⑪熟議についての理論や形式を取り上げ、熟議の概要を学ぶ。主に、熟議デモクラシー論の基礎と展開からその利点・欠点を理解し、熟議の実践例をいくつか取り上げながら、実際に行なわれてきた熟議にはどのような種類のものがあるか、理解を深める。 ⑫地域で行われた熟議の具体的な実践例についてより深く掘り下げ、その始まり→経過→結果を見ることで、熟議では実際にどのようなことが行われ、その効用がどんなものであり、課題や困難さはどこにあるのかを理解する。	オムニバス

授　業　科　目　の　概　要 （人間学部人間科学科）					
区科 分目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	全学共通部門	学融合ゼミナールⅡ		講義形式で行う。複数のディシプリン（分野・領域）の連携や交流、融合により、異なる分野の専門知を横断的にとらえ、新たな知として形にする力の育成を目指し、クロスディシプリン（複数の分野・領域の連携と融合）の実現を目的とする。具体的には現代日本において現在生じている資本主義や技術の進歩が社会にもたらす問題や課題について学融合的な観点から理解し、自らの考えを説明できることを目的とする。各回の講義は社会学､心理学、情報学を専門とする人間科学科の教員と公共政策学科の教員が担当する。 （オムニバス/全１４回） （6　澤口恵一/４回） ①イントロダクション　授業の共通テーマとして、資本主義と経済・技術の進歩との関係を歴史的に説明する。そのうえで各回の授業目的について概説する。 ⑫総括1 アカデミックエッセイの作成を目的として、これまでの授業内容について総括的な説明と問題提起を教員が行い、学生はグループワークを実践し質疑応答や授業全体についての理解を深める。 ⑬総括2　アカデミックエッセイに関連したリサーチを行う。教員が呈示した課題についてリサーチを行い、その成果についてグループで共有し質疑応答や議論を行う。 ⑭総括3　アカデミックエッセイの構成を作成したうえで、グループ内で共有し質疑応答や議論を行う。 （3　今村成夫、6　澤口恵一/2回）（共同） ②ＩＣTの進歩と個人情報、社会的分断1　ICTの進歩は同時に個人情報管理の高度化をもたらし個人の行動や思想を監視することができる仕組みが成立しようとしている。情報学の観点からICT技術の社会的利用についての動向について概説し、それがどのような問題を引き起こすのかについて考えていく。 ③ＩＣTの進歩と個人情報、社会的分断2　社会学の観点から情報とメディアに関する研究について概説し、ICTの進歩が招こうとしている視覚中心主義、社会的分断の問題について考察していく。 （9　井関龍太　1　荒生弘史/２回）（共同） ④生態指標の測定という観点から感情や感覚を心理学がどのように研究対象してきたのかを概説し、感性の工学化が社会に何をもたらすのかを考えていく。 ⑤認知心理学の立場から、視覚を心理学がどのように理解してきたのかを概説し、感性の工学化が社会に何をもたらすのかについて考えていく。 （　19　高瀬顕功/　2回 ） ⑥格差・貧困　そして自己1　公共政策の観点から、格差社会とは、収入や財産を基準に人々が階層化され、階層間の移動が難しくなっている社会状態をいう。ここでは、貧困問題のうち、「相対的貧困」を取り上げ、子どもの貧困がもたらす問題について理解を深めるとともに、どのような支援策が講じられているかを学ぶ。 ⑦格差・貧困そして自己　公共政策の観点から、貧困問題のうち「絶対的貧困」を取り上げ、日本におけるホームレスを取り巻く現状、公的支援とその課題、民間による支援の実態などを学ぶ。 （20　鵜川晃/　２回 ） ⑧グローバリズムと越境者たち、多文化共生論1　公共政策の観点から日本の移民・難民受け入れの歴史、外国人の様々な定義、在留外国人数、在留資格（出入国管理および難民法による）、移民政策の展望について学ぶ。日本に移住した労働移民の現状を知り彼らが抱える課題について理解を深め、自分たちができることについて考える。 ⑨グローバリズムと越境者たち、多文化共生論2　公共政策の観点から難民の定義やなぜ難民が増えているのかその要因について学ぶ。さらに難民らの母国からの脱出、そして移動において彼らがどのような状況下に置かれているのか、そして受け入れ国での難民・難民認定申請者の生活について理解を深め、日本社会が難民政策とどのように向き合っていくべきか自分なりの意見を持つことを目指す。 （21 大沼みずほ、10河合恭平/1回）（共同） ⑩市民社会と民主主義の危機1　政治学の立場から、日本における国政選挙の動向や課題について概説をしたうえで、市民社会や民主主義の持続のために必要な取り組みについて考えていく。 （10 河合恭平/1回） ⑪市民社会と民主主義の危機2　社会理論の立場から市民社会、民主主義がどのように成立し危機にさらされてきたのかを歴史的に理解していく。	共同 オムニバス

授　業　科　目　の　概　要 （人間学部人間科学科）					
区科 分目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	学部共通部門	人間学概論	○	講義形式で行う。人間および社会に関する諸科学を基盤とした人間学の入門的な科目として、両学科の学びをオムニバス形式を採用することで幅広い視野から講義し、人間学への総合的な理解を得ることを目的とする。 （オムニバス方式/全14回） （5　内田英二/１回） 運動や睡眠などの生活習慣が身体諸機能に及ぼす影響について、運動生理学の視点から講義を行う。 （7　長谷川智子/１回） 母子関係について、主に乳幼児期の母子相互作用における情動的なシンクロについて、発達心理学の視点から講義を行う。 （6　澤口恵一/１回） 人生における移行の研究、炭鉱離職者のライフコース研究を紹介し、家族社会学の講義を行う。 （1　荒生弘史/１回） 脳波や様々な行動指標を使った心の働きの探求をテーマに、音楽、言葉などの情報処理のメカニズムの講義を行う。 （2　荒川康/１回） 自然環境、歴史的環境を中心とした公共空間をテーマに、環境社会学の視点から講義を行う。 （9　井関龍太/１回） 文章やことばを理解しようとする心の働きをテーマに、注意や記憶をコントロールする仕組みの講義を行う。 （10　河合恭平/１回） 社会の秩序と公共性の崩壊および存続をテーマに、社会思想史からの講義を行う。 （22　宮崎牧子/１回） 地域における生活課題の対策、改善について、高齢者福祉の視点から講義をおこなう。 （17　沖倉智美/１回） 障害がある人々の意思決定、および権利擁護のあり方について講義をおこなう。 （20　金潔/１回） 現代社会と児童虐待との関連から、現代社会が目指すべきあり方について講義する。 （24　松本一郎/１回） 貧困の概念に関して解説したうえで、現代社会における貧困とその支援を具体例を用いて講義する。 （23 鈴木孝典/１回） 精神保健領域における多様な現代的な課題と、その支援の主要な概念について講義する。 （19　坂本智代枝/１回） 日本における精神障害者の差別、偏見の歴史と、その生きづらさを実態を踏まえたうえで講義し、偏見差別の問題について講義する。 （21　新保祐光/１回） 倫理についての概論と、社会における倫理的ジレンマとは何か、またその解決のためには何が必要かを講義する。	共同 オムニバス
		社会政策論		講義形式で行う。現代社会における貧困の概念、定義、測定を理解し、具体的に説明することができる、日本の貧困の実態と社会保障、社会政策と関連づけながら、具体的に説明することができるようになることを目標とする。本講義では、現代社会における貧困とは何かについて概説した上で、日本ではどのように個人や家族に貧困が降り掛かっているのかを、子ども、若者、女性、ひとり親、高齢者、野宿者に焦点をあてて、実態を明らかにする。また、それぞれに対する対策の現状と課題も取り上げる。さらに、歴史や現状を理解するために、新聞記事や関連資料はほぼ毎回提示し、映像資料は数回視聴する。	
		人間学特講		講義形式で行う。テーマは「人間学の知見にもどづいた協働力・コミュニケーション能力」。人間学部では、多様な価値観を尊重しつつ他者と協働して解決に導く能力を備えた人材の養成を目指している。本講義では、人間科学科と社会福祉学科の学生がともに、リーダシップやファシリテーション等に関する人間学的な基礎的知識を学ぶ。さらに、リーダシップに関連する知識のみを獲得するのではなく、相手との友好的で円滑な対人関係の形成や、相手の肯定的態度を引き出すための実践的グループワークを数多く体験する。これらを通じて、対人コミュニケーション能力を養成する。	

授業科目の概要 （人間学部人間科学科）						
区科 分目			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	基礎部門		基礎ゼミナールⅠ	○	演習形式で行う。テーマは「根拠に基づいた「自分の意見」を持つ」。「自分の抱く問題関心に気づき、それにもとづいて調べた結果を発表しレポートにまとめることができる。」「複数の情報源から根拠となるデータや他者の意見を探すことができる。」「「引用」を正しく行い、文章を作成することができる。」を到達目標とする。この演習では様々な情報源から多角的に（例えば、賛成意見だけではなく反対意見も含めて）情報を集め、集めた情報に基づいて「自分の意見」を形作る訓練を行う。	
			基礎ゼミナールⅡ	○	演習形式で行う。テーマは「人間科学科で学ぶためのスタディ・スキルを獲得する」。「グループワークを通じて、積極的に意見を交換し協働することができる。」「自分の抱く問題関心に気づき、それに基づいて調べることができる。」「自分で調べた結果をレポートにまとめることができる。」を目標とする。このゼミナールでは、自分自身が何に関心を抱いているかを深く考えたり、それらについて他の学生と議論する経験を重ねて、大学の学びで最も必要とされる「考える」力を高めていく。	
			心理学の基礎	○	講義形式で行う。「先入観を排除し、根拠を呈示しながら論理的に判断することができる。」「科学としての心理学がどのようなものか説明できる。」「心理学の基礎的な研究が、応用的分野や日常生活の中でどのように貢献しているのか具体的に考えることができる。」等を目標とする。本講義では、現代の心理学（主に基礎的な領域）について学んでいくことを目的とする。知覚・認知・学習の領域が現代社会の日常や病理とどのように関連しているのか考えていき、講義の後半には発達・社会・臨床という社会的な関係性を中心とした領域について学んでいく。	
			社会学の基礎	○	講義形式で行う。「社会学の基本的な考え方である「制度論」を学習することで、自身の身近な出来事をより深く理解することができる。」「「リアリティ」が社会的に構成される側面を学習することで、自身の視野を大きく拡げることができる。」を目標とする。「社会学」の基本的な考え方や発想を理解することを目的に、文化や世界・言語などの分析を手がかりに「制度論」を概観する。社会のメンバーシップを獲得していく過程として「社会化」を理解する。地域社会や学校などの「リアリティ」が社会的に構成されることを理解する。後半には「近代における〈子供の誕生〉」の議論をはじめとした具体的な問題群を、近代家族論、学校＝教育の誕生論、宗教の世俗化論、社会的逸脱行動論、ジェンダー論などとして論じる。	
			身体科学の基礎	○	講義形式で行う。テーマは「人体の構造と機能について」。「人体の構造と機能に関する基礎的知識を獲得し、生命活動を行う身体を理解することができる。」「人体に関する構造や機能を説明することができる。」「代表的な骨および筋の名称を説明することができる。」を到達目標とする。この授業では、解剖生理学を中心に人体の仕組みや働きについて講義する。	
	研究法部門	基礎科目	心理学研究法A	○	講義形式で行う。テーマは「心理学における基本的な研究方法を概観する」。「心理学研究法の基礎として、統計手法による数量データの処理ができるようになる。」「心理学的測定の基本である統計学的な問題分析の意味が理解できる。」「適切な情報収集の方法を理解できる。」を到達目標とする。心理学における基本的な研究方法のうち、特に重要な心理統計法、調査研究法の基礎的な方法論について学ぶ。	
			心理学研究法Ｂ	○	講義形式で行う。テーマは「推測統計と心理学研究法の理解」。「心理学における実験法の手続きを理解し、実験計画の立案ができる。」「量的なデータを統計的に分析する手法について理解できる。」を到達目標とし、推測統計や心理学実験で必要な研究法についての講義を行う。Ｒといった統計ソフトを用いたＰＣ演習を行うことで、調査や実験で得られた「こころ」のデータを分析できることを目指す。	
			社会調査法A	○	講義形式で行う。テーマは「社会調査の基礎を学ぶ」。「社会調査の基本的事項を正しく理解し、調査の基礎的な技法を身に付けている。」「多様な情報源に基づくデータを使って、量的・質的両面から、社会調査の基礎的な技法を用いて分析できる。」「統計情報や文章資料を正確に読み解くことで、背後にある問題を発見し、その解決に必要な情報を多角的に分析できる。」を到達目標とする。社会調査に関する基礎的な知識の習得を通じて、社会調査の考え方や心構えなどを身に付けることを目的とする。	
			社会学の理論と方法	○	講義形式で行う。「１．社会への問い方の変化」「２．リアリティ構成問題」「３．社会への問い方の現在的な基本傾向」という３つのテーマによる３部構成で講義を行い、授業で理解した「社会学の理論と方法」を用いて、現代社会にある身近な諸問題を考察できるようになることを到達目標とする。これまでに主要な社会学者によって展開された「社会学の理論と方法」が多様であることを把握するとともに、現代的な「社会への問い方」がどのようなものであるのかを社会学史的な視点から考察する。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間学部人間科学科）						
区科分目			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	研究法部門	基礎演習科目	心理学実験基礎演習Ⅰ		演習形式で行う。レポートの作成方法等に関しては、講義形式で実施する場合もある。テーマは「心理学の基礎的な実証的技法を体得する」。「心理学の実験的技法や実証的技法を体得し、現象の原因を調べることができる。」「心理学実験で得られたデータを分析し、その結果を科学論文の形式でレポートにまとめることができる。」を目標とする。この講義では、基礎的な心理学実験を経験し、実験研究に必要な基礎的な知識を修得することを目的とする。	
			心理学実験基礎演習Ⅱ		演習形式で行う。レポートの作成方法等に関しては、講義形式で実施する場合もある。テーマは「心理学の基礎的な実証的技法を体得する」。「心理学の実験的技法や実証的技法を体得し、現象の原因を調べることができる。」「心理学実験で得られたデータを分析し、その結果を科学論文の形式でレポートにまとめることができる。」を目標とする。この講義では、基礎的な心理学実験を経験し、実験研究に必要な基礎的な知識を修得することを目的とする。	
			社会調査演習Ⅰ		演習形式で行う。この科目は、社会調査演習II①②とセットで履修することで、社会調査の計画立案から実査、分析、報告書の作成までを系統的・体験的に学び、社会調査の実践技能を習得することができる。調査テーマは「現代の生活と『速度』との関係」について。演習では、私たちが生活するうえで「速度」と実際にどのように向かい合っているのか、そして今後どのように「速度」とつきあっていくべきかについて、既存の文献等を使って理解を深めた後、東京を中心に調査対象となる空間を選定して、実際にフィールドワークを行い、基礎的な情報収集を行う予定。その後得られたデータをもとに社会学的な分析を行い、調査結果を報告書にまとめる。社会調査演習Ⅰ①②では、調査の流れの理解と調査テーマの決定、予備調査の実施と本調査の計画までを学ぶ。	
			社会調査演習Ⅱ		演習形式で行う。この科目は、社会調査演習Ⅰ①②で収集したデータに基づいて、報告書原稿の書き方を学ぶとともに補足調査の実施、報告書の執筆、および校正を通じて報告書を完成させる。調査テーマは「現代の生活と『速度』との関係」について。演習では、私たちが生活するうえで「速度」と実際にどのように向かい合っているのか、そして今後どのように「速度」とつきあっていくべきかについて、既存の文献等を使って理解を深めた後、東京を中心に調査対象となる空間を選定して、実際にフィールドワークを行い、基礎的な情報収集を行う予定。その後得られたデータをもとに社会学的な分析を行い、調査結果を報告書にまとめる。	
			身体科学実験基礎演習		演習形式で行う。テーマは「身体諸機能の測定と評価」。「身体機能を評価する実験・測定で得られたデータを分析し、その結果を科学的知見に基づいて考察することができる。」「様々な実験・測定方法を習得し、実践できる。」を到達目標とする。この授業では身体機能を評価するための基礎的な実験・測定に用いる機器の正しい使用方法と測定方法、また得られたデータの分析方法やレポートの作成方法について学習する。	
		展開科目	心理学研究法C		講義形式で行う。テーマは「心理学のさまざまな研究方法を学ぶことを通して、科学的・批判的なものの見方を身につける」。心を測定可能にし、科学的な研究の対象とするためには、所定のマニュアルや機械的装置があればすむわけではなく、何らかの概念的、理論的枠組みに根差した方法論が必要になる。本講義では，心理学の研究全般に関わる基礎的な事項に加え、様々な研究テーマに応じた方法論を広く概説する。そのことを通して、心についての多様な捉え方を学び、科学的なものの見方を身につけることを目的とする。	
			社会調査法B		講義形式で行う。テーマは「社会調査の企画・設計・実施方法を学ぶ」。「インチキなデータを見抜くことができるようになる。」「社会調査の種類と方法を理解することができる。」「自分で調査の企画・立案・設計をすることができるようになる。」「資料やデータを収集して分析することができるようになる。」「データを専門の技術を使って整理や処理をすることができるようになる。」を到達目標とし、社会調査の基本用語、考え方など専門的な知識を学ぶ。	
			社会調査法C		講義形式で行う。授業中に統計や調査結果を読み取る、電卓を使って基本統計量を計算するといった具体的な作業も行う。テーマは「統計資料・調査報告書を読む」。「必要な政府統計・調査報告を収集することができる。」「収集した政府統計・調査報告から何が分かるかを吟味・検討することができる。」「収集した政府統計・調査報告を活用して、自分の知りたいことを調べることができる。」を到達目標とする。本講では、既存の政府統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文を読むための基本的知識の修得を目指す。	
			社会統計学		演習形式で行う。学生がパソコン上でデータを処理しながら進める。テーマは「統計学における推定と検定を学ぶ」。「標本データから母集団の平均や分散を推定することできる。」「基本的な統計的検定法の使い方について説明することができる。」「集計結果に示された結果が統計的に有意な差であるのかどうかが判断できる。」「統計的有意性と標本数の関係について説明することができる。」を到達目標とする。標本調査のデータを集計・分析し、レポートを書くための基礎的な能力を養う。	メディア
			多変量解析入門		演習形式で行う。学生がＰＣを使用しデータの処理を行う。テーマは「多変量解析によって何ができるのかを理解し、その原理と技法について学ぶ」。「多変量解析のさまざまな分析法を目的やデータに応じて適用することができる。」「社会学・心理学の論文で用いられる基礎的な多変量解析法を用いた分析結果や図表について説明することができる。」「多変量解析ソフトによって得られた出力の結果を理解することができる。」を目標とし、ＰＣを各自が扱いながら統計データの処理に必要なソフトの操作と、多変量解析という中級以上の分析技法の理論と実践について学ぶ。	
			質的社会調査法		講義形式で行う。テーマは「質的な社会調査の技法を身につける」。社会学において調査はしばしば量的調査と質的調査の２つに分けられるが、量的調査では調査データを数字に置き換えることによって数字を通して社会を捉えようとするのに対して、質的調査では数字には置き換えられないような調査データを通して社会を捉えようとする。そこで本授業では、その２つのうちの質的調査のほうに焦点をあて、「あるく」（フィールドワーク調査）・「みる」（ビジュアル調査）・「きく」（インタビュー調査）といった質的調査の基本的な理論と方法を学ぶとともに、簡易的な調査のワークを実際に行うことを通して、質的調査の技法を身につけることを目指す。	

授業科目の概要						
（人間学部人間科学科）						
区科分目			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	専門部門	人間発達科目（A群）	生命科学		講義形式で行う。テーマは「人間の生命科学」。「人間の脳とからだの仕組みに関する専門的知識を習得し、人間を科学的に見ることができるようになる。」「人間の営みに関心を抱き、深く洞察することで発見した生活に関する諸問題について、人間科学の観点から分析するために必要な、総合的な知識を有する。」を到達目標とする。人間を含むすべての動物のからだと脳は、生きるためと、子孫を残すための機能とそのための構造をもっている。その仕組みを学ぶことにより、自分の体を理解し、日々の生活に役立てていく。	
			身体活動の科学		講義形式で行う。テーマは「運動や身体活動による身体の変化について」。「運動が身体諸機能に及ぼす生理学的影響を説明できる。」「運動と身体諸機能の関連を説明できる。」を到達目標とする。ルー（Roux）は「すべての器官は適度に使うことによって機能的、形態的に高められるが、使い過ぎることによって発達が損なわれ、また使わなければ機能も形態も低下していく」と述べている。この授業では、運動によって生ずる身体の機能的変化の現象やメカニズム、そして健康と身体活動との関連について考えていく。	
			発育発達と運動		講義形式で行う。テーマは「現代社会における子どもおよび中高年者の発育発達の状況と運動の関連について」。「子どもから高齢者までの発育発達段階および運動との関連を理解できる。」「加齢による身体的変化について説明できる。」を到達目標とする。年齢や発育・発達段階を考慮しない間違った運動は、ケガや病気を引き起こすばかりでなく、社会的、心理的に悪い影響を及ぼす可能性も考えられる。授業では子どもから高齢者までの生涯にわたる運動実践が及ぼす様々な影響について講義する。	
			脳と心		講義形式で行う。テーマは「神経心理学の基礎を学ぶ」。「神経心理学の基礎を理解でき、神経心理学がどのように脳と心の関係を探ろうとする学問であるかを自分のことばで説明できる。」「脳と心の関係についての関心を深め、洞察し、学んだことを発展させて自ら分析する態度を身に付けることができる。」を到達目標とする。本講義では、失語（言語の障害）、失行（行ためのの障害）、記憶の障害を中心に解説し、脳と心の関係について受講生自らが考えるきっかけとなる場としたい。また、関連する認知神経心理学の考え方も紹介する。	
			基礎心理学		講義形式で行う。テーマは「人間の心の働きを、生理過程との対応関係から理解する」。「心の働きの理解に必要な生物学的構造や機能の基礎を理解できる。」「心の働きの検証のための基礎的な生理指標を理解できる。」を到達目標とする。本講義では、感覚知覚を出発点に高次脳機能の事例に至るまで、心的な特性と生理学的背景の対応関係を学ぶ。特に、心の働きの理解に有用な生物学的構造や機能と、行動指標に加え生理指標の計測が心の働きの理解に役に立つケースを実例から学ぶ。	
			心の認知科学		講義形式で行う。テーマは「認知科学（特に認知心理学・認知神経科学）の基礎知識を身に付ける」。「人間の認知（知覚・注意・記憶など）の仕組みについての基礎的な知見を理解し、説明できる。」「認知心理学の方法論について理解し、説明できる。」「日常生活で生じる疑問について、認知心理学の観点から考えることができる。」を目標とする。認知心理学という学問の全体像が受講者の中に自然と立ち現れることを目指す。	
			認知社会心理学		講義形式で行う。テーマは「対人、集団場面での行動の背後にある心の働きを理解する」。「社会行動に関わる認知心理学や神経科学の考え方や基礎概念を理解できる。」「様々な社会的行動を人間の情報処理過程の観点から説明できる。」を到達目標とする。本講義では、心の情報処理や生物学的基盤を問題にする認知心理学や神経科学の観点から、人間の社会的行動を理解するアプローチを学び、この分野に必要な基礎概念を習得する。	
			感情心理学		講義形式で行う。テーマは「感情の働きと人間行動の関係について理解する」。「感情に関する心理学や神経科学の基礎概念を理解できる。」「感情に関する種々のモデルを様々な状況に当てはめて説明できる。」を到達目標とする。本講義では、感情には様々な側面があり、それぞれが人間行動と根深く密接に関わっていることを学ぶとともに、それぞれがどのような役割を果たしているか考えていく。その際、感情の生起過程、生物学的基盤にも重点を置く。	
			生涯発達心理学		講義形式で行う。テーマは「受胎から死に至るまでの発達心理学」。「人間の発達について、霊長類と比較してその特徴を説明することができる。」「心理・社会的な視点から考えることができる。」「人間発達に関する専門的知識を習得し、私たちが生活する社会の形成を可能とする心のしくみについて理解する。」を目標とする。本講義では、受胎から死に至るまでの変化のプロセスを、生物学的な視点、心理・社会的な視点の２つの視点から学んでいく。	
			親と子の発達心理学		講義形式で行う。テーマは「現代社会における親と子に関する諸問題・課題について考える」。「現代における親と子の問題・課題として、どのようなことがあるのかデータを呈示しながら具体的に説明できる。」「人間発達に関する専門的知識を習得し、私たちが生活する社会の形成を可能とする心の仕組みについて理解する。」を目標とする。本講義では、現代社会における親と子に関する問題・課題を取りあげ、その現状と社会における対応について考えていく。	
			生と死の社会学		講義形式で行う。テーマは「現代社会を生きる「個人」の〈生〉と〈死〉について考える」。人びとが個人として生きること（自立・自己実現・自己責任など）が強調されるような現代の日本社会において〈生〉と〈死〉は、個人と集団の関係をめぐってさまざまな様相を見せており、そのような社会に生きる私たちにとってこの〈生〉と〈死〉は、個人的な問題であるようにも、また、社会的な問題であるようにも感じられる。本授業では、そうした個人が強調される現代の日本社会の状況を社会学における「個人化」論の観点から読み解くとともに、〈生〉と〈死〉について考えるための社会学的な理論を取り上げ、それを用いて私たちが生活する日本／東京の具体的な事例を検討し、私たちが生きる現代の日本社会を〈生〉と〈死〉という側面から理解することを目的とする。	

授業科目の概要						
（人間学部人間科学科）						
区科分目			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	専門部門	人間発達科目（A群）	ライフコースの社会学		講義形式で行う。「ライフコース研究の特徴や主要な概念について説明することができる。」「出来事経験（結婚や出産）にどのような変化が生じつつあるのか、その要因とともに説明することができる。」「社会変動が人々の人生にどのような面でどのような変化をもたらしていったのかを説明することができる。」を目標とする。ライフコース研究の特徴や分析のための概念について概説し、日本における人生の変容の趨勢をとらえ、晩婚化、少子化、女性の働き方の変化など、戦後の日本社会における人生の変容について考えていく。	
			健康心理学		講義形式で行う。テーマは「ストレスと健康」。「心理学的ストレスプロセスについて適切な用語を用いて説明できる。」「自分のストレス状況を理解し問題点を整理し、適切な対処方法を述べることができる。」「自分自身の心の健康について考えることができる。」「健康心理学の理論と実践について理解できる。」を到達目標とする。本講義では、ストレスの基礎について正しい知識を習得し、その上で、健康との関連を明らかにすることを目的とする。ストレス検査などを実際に体験する機会を設け、参加しながら学べる講義を目指す。	
			動物と人間の心理学		講義形式で行う。テーマは「比較行動学、比較発達心理学」。「動物の行動、学習、知覚などのほか、比較行動学や霊長類学にかかわる概念や考え方を通して、比較研究の基礎概念を理解することが出来る。」「比較行動学を通して、他種・他者への理解を深め、尊重する姿勢を持つことが出来る。」を到達目標とする。講義では、霊長類から身近な動物の行動まで概観していくことで、行動の持つ意味を理解すること、そして心の進化についても考察する。	
			人間発達特講A		講義形式で行う。「高齢者、高齢化とは何か、理解することができる。」「高齢者の社会的支援ニーズおよびこれを支える施策メニューに関する深い知識を持つことができる。」「今後高齢社会を支える側に立つ者として、社会を支えることへの意識を持つことができる。」「高齢者が一層多くなる社会のありかたを考える力を養うことができる。」を目標とする。人口における課題について取り上げ、特にわが国で進行している高齢化を中心に、その現状や社会の対応（政策）について理解を深めていくことを目的とする。	
			人間発達特講B		講義形式で行う。テーマは「青年期のアイデンティティ」。青年期は子どもから大人への過渡期であり、さまざまな側面において急激な変化があらわれる時期。本講義では、青年期を対象とした心理学の研究について幅広く学び、大学生の多くがそのまっただ中にいるであろうこの時期についての理解を深めることを目的とする。青年期の問題に対する多面的な視座を得るために、発達心理学と社会心理学を中心に、さまざまな領域のアプローチを学ぶ。	
		現代社会生活科目（B群）	社会心理学		講義形式で行う。テーマは「社会的環境への適応という観点から私たちのこころの働きを理解する」。「諸個人の間で生じる種々の相互的な対人行動や対人関係を理解し、その知識を応用できる。」を到達目標とする。講義の目的は、社会心理学の諸理論の理解を深めること、対人場面において社会心理学がどのような形で貢献できるのかを説明し、社会心理学を学ぶ意味を紹介し、その後、社会的認知や感情などの心の働きについて、実証研究を用いながら説明する。双方向的な議論も重視するため学生に身近なトピックを取りあげる。	
			コミュニケーションの心理学		講義形式で行う。テーマは「対人援助の技法を習得しながら、コミュニケーション能力を向上させる」。「対人コミュニケーションに関する諸理論を学び、特に初歩的なカウンセリングテクニックを理解できる。」「コミュニケーションの理論を学習し、実践することができる。」を目標とする。本講義では、コミュニケーションに関する心理学理論を概説するだけでなく、実際の日々のコミュニケーションに活用できるようにスキル獲得のためのグループ演習を数多く取り入れる。	
			ジェンダーの社会学		講義形式で行う。通常生活を送る中で「性」の視点から見ることのなかったもの、つまり性中立的だと思ってきた事象、現象、概念に「性」を読み込んでいく。本講義では、20世紀後半に登場したジェンダー研究の視座から、これまで自然なものと思われてきた性中立性の問題点を理解すると同時に、「差異」の形成を歴史的変遷として検証していくことを目的の一つとする。ジェンダーという視座がどのようなものの見方に対抗するために生まれてきた概念であり、どのような理論的変遷をたどってきたのかを理解し、現実世界の具体的な領域（家族、労働、性愛、暴力）におけるジェンダー研究の知見を習得することが目標である。	
			現代社会論		講義形式で行う。テーマは「私たちが生きる「現代社会」とはどのような社会なのか、その基本的な特徴を理解する」。「現代社会論の基本枠組みを学習することで、自分たちの身近な出来事を社会的な構成物として歴史的に把握できる。」などを到達目標とする。本講義では、「現代社会論」の基本的な関心がどのようなものであるのか、また「日本の高度経済成長期」の特徴を「プレ高度経済成長期」と「ポスト経済成長期」という歴史的な対比の中から把握する。	メディア
			親密圏と家族の社会学		講義形式で行う。テーマは「家族とは何か、家族という集団の現代的課題の特質について考える」。「家族・親族集団の定義と基本的な概念について説明することができる。」「現代社会において日本の家族が抱えている諸問題についてその概略を説明することができる。」を目標とする。この授業の目的は、家族の普遍性と多様性について理解をすることにある。そのうえで現代日本の家族の抱えるさまざまな課題について、日本の状況を中心に概説していく。	
			生活環境の社会学		講義形式で行う。テーマは「人間の暮らしと環境問題」。「生活環境に関わる諸問題について社会学的方法によって分析的に理解する。」「日本と諸外国における生活環境関わる問題ついての研究動向や実態を知ることを通じて、現代社会において私たちが直面する生活環境上の課題について社会学的に論じることができる。」を目標とする。私たちの暮らしと環境とがどのように関わり、環境問題に対してどのように対応しているのかについて、考えていく。	
			都市と地域の社会学		講義形式で行う。テーマは「日本の都市と地域の今を考える」。「都市をめぐる諸問題について社会学的方法によって分析的に理解する。」「日本や諸外国の都市についての考え方や動向を把握し、現代の都市生活において私たちが直面する課題について理解し、社会学的に論じることができる。」「都市生活に関する諸問題について、社会学的な観点から分析できる。」を目標し、都市の構造的な力と文化とのせめぎあいに着目しながら、私達の暮らしとの関わり方について、社会学的に考える。	

授業科目の概要						
（人間学部人間科学科）						
区科分目			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	専門部門	現代社会生活科目（B群）	職場の社会学		講義形式で行う。テーマは「現代日本の会社で働くこと」。「職業・組織・日本的雇用慣行などに関する基礎的な事柄について理解できる。」「働くことをめぐるさまざまな事象について社会学的に考察できる。」を到達目標とする。本講では、「社会的に承認され確立された行動様式」としての制度、および企業で働く人々やそれをとりまく人々の「働くこと」の意味に着目して、労働、特に企業で働くことについて社会学的に考察していく。	
			仕事の社会学		講義形式で行う。テーマは「現代日本の職業労働―若年労働者問題・女性労働・「過労死」―」。「職業・組織・日本的雇用慣行などに関する基礎的な事柄について理解できる。」「働くことをめぐるさまざまな事象について社会学的に考察できる。」を到達目標とする。現代日本社会に生きる私たちにとって、〈仕事〉とはどのようなことなのか。本講では、若年労働者問題、過労死、女性労働を取りあげて、これらをめぐる研究・言説を手がかりに、人々の「〈仕事〉の信憑」に迫ることによって、この問いに答えていく。	
			文化の社会学		講義形式で行う。テーマは「多様な文化と共に生きる社会について考える」。本授業では、文化について考えるための社会学的な理論を取り上げ、それを用いて私たちが生活する日本／東京の具体的な事例を検討する。その中では、日本の伝統的な文化からサブカルチャーや若者文化などにいたるまで、さまざまなタイプの文化について考察していく。それによって本授業では、私たちが生きる現代の日本社会を文化という側面から理解することを目的とする。	
			情報と社会		講義形式で行う。テーマは「情報社会とはどんな社会かを考察する」。「情報伝達技術の進展が社会生活に与える効果を理解できる。」「現代社会において我々が直面する課題を「情報」という観点から理解できる。」「「情報」に関してより客観的な理解ができる。」などを到達目標とする。この授業では、消費をはじめ、社会のさまざまな事象と情報との関わりを例示し、「情報社会」とはどのような社会であるのか、社会がどのように情報により影響を受けつつあるのかを考えてみる。	
			出版文化論		講義形式で行う。テーマは「『出版』の社会における意義と現状の理解」。「出版活動の社会的意義と今日的な問題・課題を理解できている。」「出版をキーワードに、人間が営む社会、とりわけ日本社会に目を向け、洞察することで発見した社会における諸問題について、人間科学の観点から分析するために必要な知識を習得できている。」を到達目標とする。この授業では、出版メディアの歴史、種類、特性、そして、現状と将来への展望まで、出版メディアに関して概観する。	
			社会問題の社会学		講義形式で行う。テーマは「社会問題について考えるための２つの理論的パースペクティブについて学ぶ」。「構造機能主義的な社会問題を理解する。」「ラベリングパースペクティブによる逸脱への視点を理解する。」「構築主義的パースペクティブによる社会問題論を理解する。」などを目標とする。構造機能主義的な考え方、レイベリング・パースペクティブに従った考え方、構築主義的な考え方の３つを、具体的な事例も踏まえて紹介し、「社会問題」についての視点を考えていく。	
			現代社会生活特講A		講義形式で行う。テーマは「グローバル化する現代社会における生とメディア」。「グローバル化という変動について理解することができる。」「メディア論と関わるキーワードを理解することができる。」「インターネットや携帯電話などをめぐるキートピックを理解することができる。」「現代社会の人と人とのつながりの根本問題について批判的に考察することができる。」を目標とする。生・犯罪心理・幸福感とメディアの関係を通して、現代社会における人と人とのつながりの現状、新しい可能性などについて考える。	
			現代社会生活特講B		講義形式で行う。テーマは、「コミュニケーション論」。本講義では、現代社会における生活世界において「当たり前」とされがちなコミュニケーションのもつ意味や広がり、深さを理解するために、コミュニケーションをアカデミックな視座から捉え返していく。日々を過ごす中で当たり前としてきた人間・社会の前提を不変不動の前提として受容するのではなく、コミュニケーションの視座から捉え返すことで、そこに立ち現れる「自己」と「差異」を認識できるようになることが、目標の一つである。	
		演習科目	人間科学専門演習Ⅰ	○	演習形式で行う。テーマは「日常生活に関する心理学的な質問紙調査」。「取り上げるべき現象を挙げ、仮説によって説明することができる。」「仮説を検証するための質問紙調査の項目を作成することができる。」を目標とし、自分たちが構築した説明理論から演繹される仮定を質問紙調査を行うことによって検証し、論文を執筆するというプロセスを通して実証的な研究をおこなって卒業論文を書くために必要な、論理的思考・批判・分析・発言能力を養う。	
			人間科学専門演習Ⅱ	○	演習形式で行う。テーマは「日常生活に関する心理学的な質問紙調査」。「質問紙調査・統計ソフトを使用したデータ解析を実施することができる。」「科学的論文の書き方に則った報告書を作成することができる。」「他者と意見を積極的に交換し、建設的な議論を重ねながら協働することができる。」を目標とする。また、論文を執筆するというプロセスを通して実証的な研究をおこない、卒業論文を書くために必要な、論理的思考・批判・分析・発言能力を養う。	
			卒業論文	○	卒業論文の執筆にむけた研究指導を行う。自ら設定した問題に既存の文献・資料あるいは調査・実験結果に基づいて答え、論文として組み立てることにより、「Life」に関する深い理解を獲得することを到達目標とする。学習の過程で身に付けた複眼的な思考、仮説を立ててデータを集めて実証する考え方、自分で計画を立てて調査・実験できる実践力を駆使して、卒業論文を執筆する。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間学部人間科学科）					
区科 分目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅲ類科目	アントレプレナーシップ育成教育プログラム	超スマート社会論		オンデマンドによる講義形式で行う。未来の社会は仮想空間と現実空間が高度に融合し、人々が活き活きと活動し、快適に暮らす社会が実現すると言われている。人とロボット・AIとの共生、多様なニーズに合わせたサービスの提供とサービス格差の解消、新しいコミュニティの創造など新たな価値が生み出される。しかし、一方で様々な問題も起きてきている。超スマート社会を実現する様々な技術や社会の動向を学び、私たちの生活がどのように変わるのか、そのような社会で私たちはどう活躍し、貢献できるのかを考える。	メディア
		新共生社会論		オンデマンドによる講義形式で行う。他者とのつながり、地域との交わり、モノとの関係性、あるいは先人たちとの関係性をもって、「私」が存在している。この世界が「関係性」で成立している以上、私たちも無関係ではいられない。様々な現場に関わる人々の活動をふまえ、彼らの原動力がどこから生まれてくるのかを知り、また、私たちがどのように主体的に関わっていけるのか、などについて「自分ごと」として学ぶ。講義を通して、「これからの自分はどうあるべきか」「新しい価値をどう生み出していけるのか」などの意識を高め、次代のアントレプレナーとしての原動力を育むことを目的とする。	メディア
		地域人イズム論		オンデマンドによる講義形式で行う。地域を支え、多様な立場で地域を創造する全国の「地域人」の生き方・働き方を取り上げ、これから自分自身がどのような「地域人」像を描きながら、生きていきたいかを探究する。 全国の「地域人」の生き方・働き方、価値観、ライフストーリーに触れ、地域で生きることの面白さ、魅力に出会い、自分自身が目指したい将来の「地域人」像を描き、「地域人」とは何か、自分自身がなりたい「地域人」とはどのような姿か、他者に伝えられるように言葉にする。	メディア
		アントレプレナーシップ論		オンデマンドによる講義形式で行う。停滞する日本社会では新しい価値を創出するイノベーションが求められている。起業家をはじめ実社会で活躍する企業人の事例に多く触れて、講義を通じての質疑や意見交換の中から、経済社会で活動するにあたり必要とされる基本的な基礎知識を理解し、実際に生かせるようにする。加えて起業への興味・関心を持ち、実際のビジネスプラン策定に必要な心構えや専門知識及び準備の手順を理解し、新たな価値を提供し社会に貢献するために必要なアントレプレナーシップを身につける。	メディア
		ロジカルシンキング		講義形式で行う。ロジカルに考える思考力とビジネスで活用できる各種フレームワークを組み合わせた課題解決の手法を学ぶ。 直感や感覚的に物事を捉えるのではなく、筋道を立てて矛盾・破綻がないように論理的に考え、結論を出すロジカルな思考法はビジネスにおいて重要なスキルである。複雑な情報や自分の意図を、相手に的確にかつすばやく伝えわるための必要な考え方を個人、グループワークを通じて学び、より実践的に学びあう。	
		データ分析技法		講義形式で行う。大量のデータが得られるようになった現代では、データをもとにした意思決定やアクションを行う必要性が業界問わず増している。「課題設定→分析設計→データ整備→データ分析→結果解釈/施策検討」というデータによる意思決定の進め方についての一連の流れを学ぶ。 店舗の実データを用いて、「どのような課題を解決すべきか（課題設定）」「どのような分析を行うか（分析設計）」「分析結果からどのようなアクションにつなげるか」を多数の演習やグループワークを交えて実践的に学び、データドリブンな意思決定を進めるための礎を体得する。	
		プログラミングの基礎		講義形式で行う。コンピュータの特徴を踏まえ、プログラミング的な思考を習得することを目的とし、プログラミングの基本的な構文を学習する。 プログラミングツール「Scratch」を使用し、様々な指令を与えて具体的な反応を見ることを通じてプログラミング的な思考を学ぶ。さらに、ヒアリング要件をもとにプログラムを設計し、ロボットに実装し運用までを試み、実践的にプログラミングとアルゴリズムを修得する。	
		ファイナンスの基礎		講義形式で行う。社会においては、あらゆる事業体が社会の変化に対応してイノベーションを起こし、持続可能なものにしていくことが求められており、それゆえファイナンスの知識を具現していることが不可欠である。 経済活動のしくみとその内容、意味、歴史的背景や問題点を考察しながら、産業の育成や起業の在り方を検討し、国際社会の動向とその影響、市場メカニズムの意義と限界を理解するとともに、国内においては人口減少及び資金調達方法の多様化にともない激変する金融システムも理解しながら、的確なファイナンス手法とは何かを学ぶ。	
		財務会計の基礎		講義形式で行う。「財務諸表」と「経営」を結び付けて考えることが出来る人材へのニーズは非常に高まっている。また、将来経営者として、自身の経営する会社の持続可能性を高めるうえでも大変重要なポイントになる。企業活動の結果である「財務諸表」の数字から、どの様な企業活動を進めていたのか、「財務諸表」を身近にしていく事を目的にする。 様々な企業の「損益計算書」や「貸借対照表」の数字について、様々な視点から考察しながら、グループ討議等により他者の視点を共有し、視野を広げて想像し分析する力を身につける。	
		マーケティングの基礎		講義形式で行う。マーケティングの基本用語や機能についての理解をもとにして、デジタルマーケティングをはじめとする近年のマーケティング実践を、実例を踏まえて学ぶ。デジタルマーケティングにおいても、顧客理解を起点としてものごとを考えること・マーケティング思考の重要性は変わらない。実社会の企業や組織の発展やヒット商品の誕生などの要因分析や、商品開発、起業などの場面で、自ら活用・実践できるようになることを目的とする。	
		言語表現技術Ⅰ		講義形式で行う。コミュニケーションに必要な「ことば」を改めて取り上げ、ことばの力を知り、自分らしい「伝わる表現力」を習得する。 具体的な事例や自分の周りの出来事から何を感じ、何が問題なのか、どう解決できるかを考え、日頃の問題意識から社会を見る目を養う。それらの視点を意識したうえで、コミュニケーションの表裏である「きく」を実践する。実際にインタビューを行うことで、何をきくのかの大切さ、事実をきく重要性を学ぶ。また、いろいろな意見から真実にたどり着くには何が必要か実践と討議により考える。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間学部人間科学科）					
区科 分目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅲ類科目	アントレプレナーシップ育成教育プログラム	言語表現技術Ⅱ		講義形式で行う。事実を見る目、思考力を養い自己発信力、きく力を身に付けコミュニケーション力を向上させ、人的ネットワークを拡げるためのスキルを身につける。 相手に伝わる表現力、相手を理解するインタビュー力を身に付けるには何が必要かを、身近な社会現象、自分の生活体験を通して考え、演習を重ね、「話す」、「きく」力＝表現力を磨いて円滑なコミュニケーション力を身に付け、ひいては人的ネットワークの構築力を高める。	
		情報表現技術Ⅰ		講義形式で行う。地域や企業の情報発信における課題を解決するために、文章や画像、動画といったデジタルコンテンツの企画・制作に関する技術を学ぶ。 誰もがデジタルメディアを通じた情報発信にかかわるようになった現場の課題に応えるスキルを実践的に学ぶ。 ワークショップとグループワーク、発表、講評の繰り返しを通じて、文章や画像、動画といったデジタルコンテンツの企画・制作に関するスキルを身につける。	
		情報表現技術Ⅱ		講義形式で行う。運営者になったつもりでコンテンツを企画・制作したりといった活動を、ワークショップ形式で実施する。 情報表現技術Ⅰで身につけたスキルを活用し、デジタルコンテンツの流通する主たるメディアであるソーシャルメディアの性質やファンコミュニティの特徴について学び、実践的なリサーチをおこない、活用するスキルを身につける。	
		キャリア探究A		講義形式で行う。大手企業から中堅企業まで様々な経営者または経営管理者層から、企業経営の実際について体験に基づいた話（企業の役割、業種の多様性、業界の動向、経営理念、経営戦略、経営者の役割とマネジメント）を中心に、今後求められる人材像をテーマにグループワークを行い、働くことの意義や仕事（職業）の選択の考え方について議論し、将来のキャリアを探究する。	
		キャリア探究B		講義形式で行う。中小企業の経営者が企業経営の実体験に基づいて語る中小企業の役割、業種の多様性、経営理念、経営者の役割とマネジメントなどを題材にグループワークを行い、働くことの意義や仕事（職業）の選択の考え方について議論し、将来のキャリアを探究する。	
		キャリアデザインA		講義形式で行う。将来のキャリアビジョンを描き、実現するためのはじめの一歩である。自己理解を深め、自分らしいキャリア構築を実現するために具体的なアクションプランを策定すると同時に、目標達成にむけて必要なスキルを毎回の実践的トレーニングを通し高め、最終的には社会で求められる資質・能力を培う。	
		キャリアデザインB		講義形式で行う。人生100年時代と言われる中、自ら課題を見つけ、解消していく力が求められている。その課題を解決するために「自分とは」「社会とは」を考え、今後の人生を生き抜く「自分軸」を確立することを目的とする。また、社会で良質な陣限関係を構築するために、他者と協働するためのリーダーシップ・対人コミュニケーション力をケーススタディを含む実践的なワークの中で身につける。	
		コミュニケーション		講義形式で行う。多様な価値観が様々な方法で飛び交う時代に、コミュニケーションスキルは最も重要なスキルの一つである。1対1、複数対複数、ワークショップ形式、ビジネスシーン等のシチュエーションに基づいた重要要素、スキルの理解とグループワークでの実践を通じて、今後のビジネスや社会生活において有用な知識の習得する。 様々なシチュエーションを想定し、社会に出てからも“使いこなせる”オンライン・オフラインを問わない万能なコミュニケーションスキルを基礎と実践で学ぶ。	
		リーダーシップ		講義形式で行う。新たな価値を生み出すための変革を実現するために、自らが主体となって様々な人たちを巻き込み、動機づけ、社会課題に挑戦するリーダーシップのあり方やスキルについて学ぶ。 加えてモチベーション理論や関連した行動科学の理論を学び、身近な組織や自分が所属する集団の状況をこれらの理論に当てはめて分析することで、リーダーシップの有効性と集団の状況との関係を考える。 様々なリーダーシップ理論を援用して、自分自身の行動スタイルやリーダーシップを発揮できるようになることを目的とする。	
		ファシリテーション		講義形式で行う。現実社会で難しい状況にもひるまず臨むファシリテーション力を身につけ、多様な価値観・背景をもつ参加者が、目的実現に向けて、限られた時間の中で合意形成し、解決策を考案することを目的とする。 「お互いを知り合う」ことから始め、現状の問題意識、将来への思い、テーマ設定、合意形成、解決策決定など、段階に応じた話し合いを実践する。これらのグループワークを通して、必要最小限のファシリテーション知識を確認したうえで実践練習し、振り返り、様々な手法を身につける。	
		プレゼンテーション		講義形式で行う。プレゼンテーションの概念、作成方法および発表手法を学び実践することで、相手に伝わるアウトプット（言語化・表現手法）スキルの習得を目的とする。 プレゼンテーション＝単なる発表・報告ではなく、ビジネスシーンにおいて必要とされるプレゼンテーション（相手を動かす、目標を達成する）について理解し、構成の作り方・デザインスキルを身につける。また、ターゲット・目的・シチュエーションに合わせてプレゼンテーションの構成を自分の力で組み立て、伝えたいことを論理的にまとめ、言語化する力を培う。	
		マネジメント		講義形式で行う。企業やNPOといった組織が期待に応える成果をあげていくためになされる活動の背景にあるマネジメントの基礎を学び、実践するための継続学習の起点を作る。 マネジメントとは何か、その目的、役割は何かどのようなことをすればよいのかを事例や演習を通じて全体像を習得する。事業を立ち上げる土台となるマーケティングとイノベーションの位置づけと関係、アントレプレナーシップに基づく戦略の習得にもウエイトを置き、バランスの取れたマネジメントを学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間学部人間科学科）					
区科 分目		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅲ類科目	アントレプレナーシップ育成教育プログラム	ビジネス英語		演習形式で行う。世界のビジネスシーンでいま何が起きているのか、また国際社会での日本の立ち位置について理解し、学生自らがそれらのテーマについて主体的に思考する機会を設ける。 授業はAll English、すなわち英語で行われる為、学生の基礎英語力をビジネスに必要な英語コミュニケーション力へとブラッシュアップすることを目的とする。具体的には、英語でビジネスについてのインプットを行い、身に付けたビジネス英単語や表現方法を活用しながら英語でのアウトプットにも挑戦する。	
		ビジネス中国語		演習形式で行う。グローバルビジネス現場で使われる中国語コミュニケーションの理論、基礎知識、実践能力を学ぶ。 中国ビジネスをみていくうえで必要なビジネスコミュニケーションの基礎を学び、具体的な中国語ビジネスコミュニケーションスキルを場面別に学習する。さらに、基礎と応用能力を融合させ、実践的なビジネスコミュニケーション能力を身につける。	
		マイスターワークショップ		新しいビジネスの開拓、既存の仕事や事業の改革、人やコミュニティづくりなど新しいことに一歩を踏み出し、社会に貢献できる能力を「知識」と「実践」の融合により修得する。 様々な分野で活躍する方々との対話を通して、地域を題材とした学びと活動を一体化した実践的な学びを行い、新しいことにチャレンジするアントレプレナーシップの修得し、地域戦略人材となることを目的とする。	
		マイスターフィールドワーク		サテライトキャンパス（南三陸、京都、藤枝、淡路、阿南）や付置研究所の地域構想研究所の地域支局を活用してフィールドワークを実施し、現地の自治体、NPO、企業、教育機関などと協働し、地域の課題可決に取り組む。 地域に関するデータの収集・整理・分析を通じて、地域の課題を発見し、改善・解決するための方向性を構想しながら活動計画を立て、実行するための手法を身につける。これまでの「知識」を「実践」の場で活用できることを目的とする。	
		マイスターインターンシップ		インターンシップは、国内における様々な組織で実施されている仕事を体験し、労働の意義・倫理等を自ら気づき、職業への意識や理解を高め、社会人としての必要な技能を培うと共にキャリアを考えることを目的とする。 企業実習にあたっては事前に必要な業界研究・企業研究を実施する。実習では日々の気づき、体験を通じて得られた知見、その課題などについて毎日リフレクションを行い、実習レポートを取りまとめる。それらの経験を発表、グループで共有し、将来のキャリアに繋げていく。	
		短期留学		グローバル化の進む世界にあって、国内外を問わず、異文化理解、外国語習得、国際的活動に必要なコミュニケーション能力が強く求められている。 海外での短期研修を通じて、異文化・多文化環境への適応力の養成と、外国語による実践的なコミュニケーション力の向上を図り、多文化社会において実力を発揮できる自信を体得することを目的とする。	
		海外インターンシップ		海外での就業体験を通じて、国際的なビジネスにおける職業への意識や理解を高め、リーダーシップやチームワークを実践的に学び、グローバルな知見を広げる。また、複数業種の海外企業を視察して様々な働き方を知り、自分のキャリアを考える。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間学部社会福祉学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅰ類科目	人間の探究Ⅰ		「人間の探究」は３クォーター（合計６単位：100分授業×週２回）にわたって開講する。第1クォーターに開講される「人間の探究Ⅰ」は、人間が蓄積してきた知の総体である「文化」（文学・歴史・思想・心理・宗教・芸術など）について学びながら、世界や日本、地域、そして他者・自己を観る視点を養うとともに、自らの生き方について考えを深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。講義とグループワークのなかで、担当教員が設定したテーマに関する基礎的な知識を身につけることをめざす。 また、同時に講義とグループワークのなかで他者と対話することを通じて、大学で学ぶ仲間をつくり、自己理解を深め、自ら学ぶ姿勢を整える。「人間の探究Ⅰ」では、高校の学びから大学の学びへの転換を図るため、今の自分の現状を把握する。	共同
	人間の探究Ⅱ		第2クォーターに開講する。「人間の探究Ⅰ」に引き続いて、人間が蓄積してきた知の総体である「文化」（文学・歴史・思想・心理・宗教・芸術など）について学びながら、世界や日本、地域、そして他者・自己を観る視点を養うとともに、自らの生き方について考えを深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。「人間の探究Ⅰ」で学んだスキルや知識を活用しつつ、担当教員が設定したテーマについて理解を深めることをめざす。最終的には、これまでの学びや自己理解をふまえて、「大学で学ぶことの意味」をテーマとしたレポートを作成する。	共同
	人間の探究Ⅲ		第4クォーターに開講する。「人間の探究Ⅱ」に引き続いて、人間が蓄積してきた知の総体である「文化」（文学・歴史・思想・心理・宗教・芸術など）について学びながら、世界や日本、地域、そして他者・自己を観る視点を養うとともに、自らの生き方について考えを深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。これまでの経験や学びをふまえて、人間というテーマについてさらに見聞や洞察を広げ深めるとともに、それらを統合することをめざす。最終的には、自分が世界や社会、他者とどうつながり貢献していくかを考え、「未来計画書」を作成する。	共同
	社会の探究Ⅰ		「社会の探究」は３クォーター（６単位：100分授業×週２回）にわたって開講する。第1クォーターに開講する「社会の探究Ⅰ」は、変動の激しい現代社会をさまざまな観点から理解するとともに、私たちが他者と協働しながら、いかに理想的な社会を実現していくかについて学ぶことを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。授業を通して、社会の課題を発見するために必要な情報を収集・分析する力、本質を見極めて解決策を考える力を養うとともに、他者に伝える表現力、責任をもって課題に取り組む主体性を身につけることをめざす。 また「社会の探究Ⅰ」では、「社会の探究Ⅱ」で展開される「ミニプロジェクト」に取り組むための助走期間と位置付ける。グループワークを通じて現代社会の課題を「自分ごと」として捉える視座を身につけ、プレゼンテーションのスキルを学びながら、仲間と協働する態勢を整える。	共同
	社会の探究Ⅱ		第2クォーターに開講する。「社会の探究Ⅰ」に引き続いて、変動の激しい現代社会をさまざまな観点から理解するとともに、私たちが他者と協働しながら、いかに理想的な社会を実現していくかについて学ぶことを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。人権や経済という切り口から現代社会の課題に「自分ごと」として関わる態度を身につけるとともに、地域（local）の視座に立った「ミニプロジェクト」をおこなう。他者との協働、情報の収集、課題の発見・問題の解決、プレゼンテーションに取り組むことで、チームづくりに必要な力を深める。	共同
	社会の探究Ⅲ		第4クォーターに開講する。「社会の探究Ⅱ」に引き続いて、変動の激しい現代社会をさまざまな観点から理解するとともに、私たちが他者と協働しながら、いかに理想的な社会を実現していくかについて学ぶことを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。これまでの学びを統合しながら、地域（local）における課題に「自分ごと」としてかかわり、その解決策をより多角的な観点から考察を深めることをめざす。具体的には、チームの仲間とともに「ファイナルプロジェクト」を完成させて、プレゼンテーションをおこなう。	共同
	自然の探究Ⅰ		「自然の探究」は３クォーター（６単位：100分授業×週２回）にわたって開講する。第1クォーターに開講する「自然の探究Ⅰ」は、地球環境をめぐるさまざまな問題を多角的に検討するとともに、自然環境と人間活動とのかかわりについて洞察を深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。 また「自然の探究」では、論理的な思考力を涵養し、大学での学びに必要となる文章作成力を身につけることをめざす内容も展開される。「自然の探究Ⅰ」では思考や表現・表記について学ぶとともに、大学のレポートと高校までの感想文との相違など、レポート作成上の基礎について理解を深める。	共同
	自然の探究Ⅱ		第2クォーターに開講する。「自然の探究Ⅰ」に引き続いて、地球環境をめぐるさまざまな問題を多角的に検討するとともに、自然環境と人間活動とのかかわりについて洞察を深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。「自然の探究Ⅱ」では、担当教員が設定したテーマについて理解を深めるとともに、レポート作成のトレーニングに力を入れる。とくに、発想力や読解力といったレポート・論文を書くための基礎能力を身につけることをめざす。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（人間学部社会福祉学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅰ類科目	自然の探究Ⅲ		第4クォーターに開講する。「自然の探究Ⅱ」に引き続いて、地球環境をめぐるさまざまな問題を多角的に検討するとともに、自然環境と人間活動とのかかわりについて洞察を深めることを目的とする。授業は講義形式で進めつつ、適宜、グループワークを主としたアクティブラーニングを実施する。「自然の探究Ⅲ」はこれまでの学びの統合が果たされる。つまり自然環境と人間活動とのかかわりについての知識と、論理的な思考力や文章作成力にもとづいて、一年間の学びの集大成としてアカデミックエッセイを執筆することをめざす。	共同
	総合英語Ⅰ		「総合英語」では、年間を通して一貫した方針の下、対面授業とオンデマンド型授業を組み合わせることによって、総合的な英語力の育成を目的とする。 対面授業では、多様なトピックの中から語彙や表現を学び、ペアワークやグループワーク、発表といった活動を通じてコミュニケーションに必要な英語力を身につけるとともに、大学生として必要なリーディング力の強化を図る。 eラーニングシステムを使ったオンデマンド型授業では、語彙や文法、リスニング・リーディング演習をおこない、自律的な英語学習を促しながら情報収集や意見の発信に必要な英語力を強化する。	メディア（一部）
	総合英語Ⅱ		「総合英語」では、年間を通して一貫した方針の下、対面授業とオンデマンド型授業を組み合わせることによって、総合的な英語力の育成を目的とする。 対面授業では、多様なトピックの中から語彙や表現を学び、ペアワークやグループワーク、発表といった活動を通じてコミュニケーションに必要な英語力を身につけるとともに、大学生として必要なリーディング力の強化を図る。 eラーニングシステムを使ったオンデマンド型授業では、語彙や文法、リスニング・リーディング演習をおこない、自律的な英語学習を促しながら情報収集や意見の発信に必要な英語力を強化する。	メディア（一部）
	総合英語Ⅲ		「総合英語」では、年間を通して一貫した方針の下、対面授業とオンデマンド型授業を組み合わせることによって、総合的な英語力の育成を目的とする。 対面授業では、多様なトピックの中から語彙や表現を学び、ペアワークやグループワーク、発表といった活動を通じてコミュニケーションに必要な英語力を身につけるとともに、大学生として必要なリーディング力の強化を図る。 eラーニングシステムを使ったオンデマンド型授業では、語彙や文法、リスニング・リーディング演習をおこない、自律的な英語学習を促しながら情報収集や意見の発信に必要な英語力を強化する。	メディア（一部）
	データサイエンスⅠ		演習方式で行う。「データサイエンス」とはデータを用いて新たな科学的および社会に有益な知見を引き出そうとするアプローチのことであり、もはやデータサイエンスがなければ世の中が成り立たないといっても過言ではない。「データサイエンス」科目では、自らとデータサイエンスとつなぐ道を開くために、データとは何なのか、データを活用するとはどういうことなのかを学ぶ講義を開催する。 データサイエンスⅠでは、データサイエンスとは何かを学び、更に身近な事例や社会で活用されている事例を通してデータを活用するスキルの必要性を理解すると同時に統計学の基礎知識を習得する。またPCやデータを利用する際に必要となる情報リテラシーについても学ぶ。演習では統計の基礎知識と連動してExcelの基本操作を習得する。	共同
	データサイエンスⅡ		演習方式で行う。データサイエンスⅡでは、世の中におけるデータサイエンスの現状や及ぼす影響等について幅広く学び、どのような手段、手法、仕組みを通じて有効に活用できるかを学ぶ。さらにはAIについて、体験型のワークを通して、AI活用のイメージを明確にしたうえで、AI可能性や面白さを知り、AIの今後の活用の可能性について理解を深める。演習では統計学の基礎知識からのデータの扱い方、データのばらつきと傾向の表し方、さらにはグラフの読み取りと表現方法をExcelスキル習得と合わせて学ぶ。	共同
	データサイエンスⅢ		演習方式で行う。データサイエンスⅢでは、tableauを活用してデータを探索的に分析し、わかりやすく可視化して伝達する基本スキルを習得すると同時に、データ分析から課題解決につながる課題抽出力の基礎を学ぶ。さらにはBIツールのベースとして使われているデータベースの仕組みやデータの型、データ属性なども含めて学ぶ。	共同
	データサイエンスⅣ		演習方式で行う。データサイエンスⅣの「問題解決型ミッション」やデータサイエンスⅥの「価値創造型ミッション」に取り組む前提として、tableauを活用して目的に合致した実用的なチャート、適切なグラフ表現、さらには効果的なダッシュボード作成を目指す。tableauの演習ではデータに対して適切なグラフの種類の選び方と各グラフの留意点を習得し、基本的なビジュアライゼーションが作成するスキルを身につける。また世の中でAIが活用されている事例を幅広く知り、常に進化する技術の動向についても関心と理解を深めた上で、AI活用社会の未来について理解と想像力を高める。	共同
	データサイエンスⅤ		演習方式で行う。「問題解決型ミッション形式」にて社会の課題解決力の習得を目指す。「問題解決」とは「理想の姿」を実現するために「現実とのギャップ」を埋めることである。企業のデータを活用し、企業の抱える問題に対してどのように解決を図るのかを、データ分析から仮説を導き出し、さらには解決策の提案まで行う力を身につける。tableauの演習では複数テーブルの扱いを含むデータの整形および計算式における条件分岐の記述、さらに表計算を活用したビジュアライズを習得する。	共同
	データサイエンスⅥ		演習方式で行う。「価値創造型ミッション形式」にて社会の課題解決力の習得を目指す。企業のデータと合わせてオープンデータも活用して、複数のデータ分析から多面的な課題抽出を行い、課題の発見と解決策の構築について、演習を通じて学び、提言につながる学修をおこなう。Tableauの演習ではダッシュボードをインタラクティブにする方法を学ぶ他、聴き手にスピーディに正しく情報を伝達するために必要な考え方やスキルを習得する。 データサイエンスⅥ終了時には様々なデータからの統計分析や論理的な思考スキルを身に付け、課題の発見や解決、社会への価値創造につながる仮説を構築する力を習得する。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（人間学部社会福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅰ類科目		リーダーシップⅠ		演習方式で行う。適宜、議論・討論やプレゼンテーションを交え、アクティブラーニングで実施する。現代日本社会には地域活性化や福祉の充実、自然の再生など、取り組むべき多くの課題がある。これらの課題にはいくつもの要因が複雑に絡まり、その解決・実現には人と人とが多様なアイディアをもち寄り、協働することが必要となる。こうした現代社会を生き、自身の出会う課題と向かい合ううえで注目されているのが、リーダーシップという考え方である。この科目では、こうした「リーダーシップ」についてワークを交えながら経験的に学び、履修者それぞれが自身のリーダーシップ観を知り、またそれを再構成することを目的にすえる。	共同
		リーダーシップⅡ		演習方式で行う。適宜、議論・討論やプレゼンテーションを交え、アクティブラーニングで実施する。大学卒業後、どのように自分が社会と接続していくのか、意識を高めていく大事な時期である。自分らしいリーダーシップとは何かをさらに深め、社会からの求めに自らがいかに応えるかについてよく考え、社会にエントリーする準備を整えることが、この授業の目的である。 リーダーシップⅠを通して深めた自己理解を基盤として、社会に接続していく準備を行う。そのために、社会人として身につけておくべきマナーや学力を理解し、社会で働くことの意義について考える。また、これまでの学業や生活を振り返り、自身が取り組んできたことやこれから挑戦したいことを整理し、社会に向けて自分を表現する準備を行う。	共同
		リーダーシップⅢ		演習方式で行う。適宜、議論・討論やプレゼンテーションを交え、アクティブラーニングで実施する。自らの強みを知り、目指すリーダーシップ像に近づいていくために、今後の大学生活をいかに過ごしていくのかを考える機会とし、リーダーシップⅡに引き続いて、社会にエントリーする準備を展開させることがこの授業の目的である。 リーダーシップⅠ・Ⅱで取り組んだ自己分析（自分が目指すリーダーシップ像はどのようなものなのか、自分はどのような適性や能力を持っていて、どのような目標や夢を目指すのか）を踏まえて、現時点で興味のある進路について研究を行うことで、卒業後の進路や職業を主体的に考え、キャリアを形成していくことを目指す。	共同
第Ⅱ類科目	全学共通部門	学融合ゼミナールⅠ		講義形式で行う。複数のディシプリン（分野・領域）の連携や交流、融合により、異なる分野の専門知を横断的にとらえ、新たな知として形にする力の育成を目指し、クロスディシプリン（複数の分野・領域の連携と融合）の実現を目的とする。 本授業では、貧困や多文化共生をテーマとし、社会福祉学と日本語教育学・日本文学の複合的な視点から、これらの社会的な課題を解決するための多面的・重層的な思考を修得する。 そのためのテクストとして、貧困や社会福祉に関わる小説（日本文学）やドキュメンタリーを出来る限り取り上げる。 （オムニバス方式/全１４回） １回～５回 （7 松本一郎/５回） 様々な貧困の形（子供・ひとり親・野宿者・女性）について講義する。 ６回～10回 （11中川祐治/５回） 多文化共生社会における言語の問題と言語教育に現状と課題ついて講義する。 11回～12回 （2神山裕美/２回） 地域における多文化共生社会における課題を、ここまでの貧困、言語と関連付けて講義する。 13回～14回 （7松本一郎、11中川祐治/２回）（共同） ここまでの講義を踏まえて、学んだことのディスカッションを小グループに分かれて行う。レジメにまとめ全体で発表することで、学びを全体でシェアする。	共同 オムニバス
		学融合ゼミナールⅡ		講義形式で行う。複数のディシプリン（分野、領域）の連携と交流、相互理解を通して現代社会の課題を解決する力を養う。「社会福祉学の融合」では、社会科学と「文学」の視点から、社会福祉の専門分野を通じて、複雑で多様な人間社会に応えることのできる「地域戦略人材」を担う思考を修得する。多角的な理解を意図して、複数の教員がオムニバス方式で行う。 （オムニバス/全14回） （3 坂本智代枝・ 高田三枝子/4回）（共同） ①②社会福祉学科と日本文学科学生合同の小グループにより、互いの学修内容や学問領域の課題を学びあう。 ⑬⑭社会福祉学科と日本文学科学生合同の小グループにより、本授業からの学びを共有し、資料を作成しプレゼンテーションを行う。 （6 宮崎牧子/1回） ③高齢者の生活、人生を描いた文学作品から学ぶ ４回目 （5 新保祐光/1回） ④病や病者の生活、人生を描いた文学作品から学ぶ ５回目 （1 沖倉智美/1回） ⑤障害者の生活、人生を描いた文学作品から学ぶ ６回目 （4 金潔/1回） ⑥子どもの生活、人生を描いた文学作品から学ぶ ７回目 （8 鈴木孝典/1回） ⑦精神障害者の生活、人生を描いた文学作品から学ぶ （12 高田三枝子/5回） ⑧～⑫文学から社会を読み解くことに関して講義する。	共同 オムニバス

授　業　科　目　の　概　要

（人間学部社会福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	学部共通部門	人間学概論	○	講義形式で行う。人間および社会に関する諸科学を基盤とした人間学の入門的な科目として、両学科の学びをオムニバス形式を採用することで幅広い視野から講義し、人間学への総合的な理解を得ることを目的とする。 （オムニバス方式/全14回） （12　内田英二/１回） 運動や睡眠などの生活習慣が身体諸機能に及ぼす影響について、運動生理学の視点から講義を行う。 （14　長谷川智子/１回） 母子関係について、主に乳幼児期の母子相互作用における情動的なシンクロについて、発達心理学の視点から講義を行う。 （13　澤口恵一/１回） 人生における移行の研究、炭鉱離職者のライフコース研究を紹介し、家族社会学の講義を行う。 （10　荒生弘史/１回） 脳波や様々な行動指標を使った心の働きの探求をテーマに、音楽、言葉などの情報処理のメカニズムの講義を行う。 （11　荒川康/１回） 自然環境、歴史的環境を中心とした公共空間をテーマに、環境社会学の視点から講義を行う。 （16　井関龍太/１回） 文章やことばを理解しようとする心の働きをテーマに、注意や記憶をコントロールする仕組みの講義を行う。 （15　河合恭平/１回） 社会の秩序と公共性の崩壊および存続をテーマに、社会思想史からの講義を行う。 （6　宮崎牧子/１回） 地域における生活課題の対策、改善について、高齢者福祉の視点から講義をおこなう。 （1　沖倉智美/１回） 障害がある人々の意思決定、および権利擁護のあり方について講義をおこなう。 （4　金潔/１回） 現代社会と児童虐待との関連から、現代社会が目指すべきあり方について講義する。 （7　松本一郎/１回） 貧困の概念に関して解説したうえで、現代社会における貧困とその支援を具体例を用いて講義する。 （9 鈴木孝典/１回） 精神保健領域における多様な現代的な課題と、その支援の主要な概念について講義する。 （3　坂本智代枝/１回） 日本における精神障害者の差別、偏見の歴史と、その生きづらさを実態を踏まえたうえで講義し、偏見差別の問題について講義する。 （5　新保祐光/１回） 倫理についての概論と、社会における倫理的ジレンマとは何か、またその解決のためには何が必要かを講義する。	オムニバス
		社会政策論		講義形式で行う。現代社会における貧困の概念、定義、測定を理解し、具体的に説明することができる、日本の貧困の実態と社会保障、社会政策と関連図家ながら、具体的に説明することができるようになることを目標とする。本講義では、現代社会における貧困とは何かについて概説した上で、日本ではどのように個人や家族に貧困が降り掛かっているのかを、子ども、若者、女性、ひとり親、高齢者、野宿者に焦点をあてて、実態を明らかにする。また、それぞれに対する対策の現状と課題も取り上げる。さらに、歴史や現状を理解するために、新聞記事や関連資料はほぼ毎回提示し、映像資料は数回視聴する。	
		人間学特講		講義形式での行う。テーマは「人間学の知見にもどづいた協働力・コミュニケーション能力」。人間学部では、多様な価値観を尊重しつつ他者と協働して解決に導く能力を備えた人材の養成を目指している。本講義では、人間科学科と社会福祉学科の学生がともに、リーダシップやファシリテーション等に関する人間学的な基礎的知識を学ぶ。さらに、リーダシップに関連する知識のみを獲得するのではなく、相手との友好的で円滑な対人関係の形成や、相手の肯定的態度を引き出すための実践的グループワークを数多く体験する。これらを通じて、対人コミュニケーション能力を養成する。	
	基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	○	演習形式で行う。社会問題について関心を持ち、社会問題を調べる力、社会問題を理解する力、社会問題の解決を考える力を、小グループでディスカッションや活動をしながら身につけることを目的とする。とくに(1)教職員の指示のもと行動することができる。(2)積極的に質問し、自ら考えて行動する。(3)収集した資料やグループ学習を踏まえ、レジュメを作成することができる。(4)グループ討議や発表などにおいて、自分の学習成果や意見などを的確に述べることができる能力の獲得を目指す。基礎ゼミナールⅠ・Ⅱは連続した授業である。	共同
		基礎ゼミナールⅡ	○	演習形式で行う。社会問題について関心を持ち、社会問題を調べる力、社会問題を理解する力、社会問題の解決を考える力を、小グループでディスカッションや活動をしながら身につけることを目的とする。とくに(1)教職員の指示のもと行動することができる。(2)積極的に質問し、自ら考えて行動する。(3)収集した資料やグループ学習を踏まえ、レジュメを作成することができる。(4)グループ討議や発表などにおいて、自分の学習成果や意見などを的確に述べることができる能力の獲得を目指す。基礎ゼミナールⅠ・Ⅱは連続した授業となる。	共同
		社会福祉入門	○	講義形式で行う。社会福祉の基礎として、専門職が持つべき「感性」について、映像や資料、当事者の話から学び、共感する力を磨くことを目標とする。同時履修する基礎ゼミナールⅠと関連付け、小グループでのディスカッションを通して、理解を深めていく。授業は講義形式とグループ形式にて行う。具体的な到達目標は、利用者のおかれた生活課題と心情を理解することができる、共感する力を身に付けている、発表やグループ討議などについて自分の学習成果や意見を的確に述べることができる、社会福祉の基礎知識を身に付けている、である。	
		社会福祉原論Ⅰ	○	講義形式で行う。「社会福祉とはなにか」について体系的に学ぶことを目標とする。思いやりや慈しみは大切だが、それだけでは生活困難を抱えている人々の生活は向上しない。家族のありかた、雇用、住宅、生活文化、政治経済の動向など様々な見地から、社会福祉を必要とする人々の生活上の問題を把握し、どのようにして問題は生み出されるのか、具体的な解決のための社会福祉の方策を考えるための視座を習得する。具体的な到達目標は、①社会福祉を体系的にとらえることができる、②社会福祉の制度やサービスを必要とする人々の生活実態がイメージできる、③生活支援の具体的な方法を考えることができる、である。	

授業科目の概要					
（人間学部社会福祉学科）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	基礎部門	仏教社会福祉論		講義形式で行う。わが国の福祉思想に関する経緯を理解し、思想と実践の関連が理解を理解し、仏教福祉の今日的課題から市民福祉への視点が習得することを目標とする。社会福祉および福祉実践に影響を与えて仏教社会福祉の思想と実践への考察をテーマに掲げている。近代から現代に至るわが国の福祉思想に影響を与えた仏教福祉思想の流れを整理しながら、仏教社会福祉実践の展開についての検証を試みる。さらには、市民社会の形成にかかわる仏教社会福祉の今日的課題について考察する。	
		ソーシャルワーク論Ⅰ	○	講義形式で行う。以下の５点を目標とする。 ①社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、範囲について整理して述べることができる。 ②社会福祉士および精神保健福祉士としての実践基盤となる価値と相談援助の理念について説明できる。 ③社会福祉士および精神保健福祉士の固有の相談援助の概念について説明することができる。 ④社会福祉士および精神保健福祉士の倫理綱領について、説明することができる。 ⑤社会福祉士および精神保健福祉士の倫理的ディレンマについて、具体例をもとに説明することができる。 社会福祉士および精神保健福祉士の役割や意義を、法制度や具体的な実践から把握し、「人権尊重」「社会正義」「利用者主体」「尊厳保持」等をキーワードとして、相談援助の概念と範囲をソーシャルワークの定義を踏まえつつ理解する。	
	専門部門	社会保障論Ⅰ		講義形式で行う。社会保障制度の目的、基本的仕組みを理解することを目標とする。個人や家族の生涯において、貧困・低所得、病気、老齢、失業、業務災害などは、個人や家族の生活困窮・困難を引き起こす場合がある。社会保障制度は、その社会的対応策であり、“ゆりかごから墓場まで”、健康で文化的な最低限度の生活を守ることを目的としている。各制度の現代的課題や今後の方向性についても説明する。歴史や現状を理解するために、新聞記事や関連資料はほぼ毎回提示し、映像資料は数回視聴する。	
		地域福祉論Ⅰ		講義形式で行う。以下の３点を目標とする。 ①地域社会で発生している生活問題について具体的に述べることができる ②地域社会で取り組まれている活動や実践に参加することができること ③地域の社会資源や地域の特性について述べることができる 地域社会で発生している生活問題と地域福祉がテーマである。地域社会では、今どのような問題が起きているのかを具体的に知る。そして、その地域社会の問題を解決するためには、自治体・社会福祉協議会・町内会や自治会がどのような取り組みをしているのか具体的に知る。	
		心理学		講義形式で行う。心理学の基礎知識を身につけ、心理学的視点から社会事象を説明することができるようになることを目標とする。社会福祉的援助を行う人のための心理学入門である。社会福祉の領域では、近年ますます対象者の心理面が注目されている。本講義では、社会福祉の実践のための心理学知識の基礎を得ることと、選択資格科目のひとつである心理学受験に備えることを目指して、心理学の全領域を概説する。社会福祉士養成課程の指定科目である。	
		社会福祉基礎実践		演習形式で行う。社会福祉施設の機能について理解する枠組みが持てるようになること、利用者像を捉える枠組みが持てるようになること、社会福祉専門職の役割が説明できるようになることを目標とする。社会福祉施設とその利用者、またそこで働く専門職について学ぶ。グループ学習をおこなうことで、一人の視野では足りないところ、またはそれぞれの強み、弱みによる見えるものの異なりを補完し合い、より深い事前学習を可能とする。また、その協力し合うプロセス自体が、社会福祉現場で求められる協働の基礎となることを目的とする。	
		インクルーシブデザインゼミナールⅠ		演習形式で行う。すべての人々が自律的に参加できる社会を目指すという共通の目的のもと、各自の関心のあるテーマ、方法でその実現のために必要なことを探求する。学生の関心と資質を尊重し、個別およびグループ学習を適宜使用てて学習を進める。インクルーシブデザイン論、インターンシップなどと適宜連携し、理論と実践の融合、先輩たちの活動報告や後輩の率直な意見などを聞くことによって、より多様な視点から、多角的な参加についての検討を深める。	
		ソーシャルワーク論Ⅱ		講義形式で行う。主な目的は、実習に行くにあたり専門職としてのかかわりができるように、専門的支援の基本的な方法とプロセスに関わる知識と技術を学ぶことである。そのために以下の４点について講義し、必要に応じて演習的なようを交えて授業を行う。①ソーシャルワークの展開過程とそれに係る知識と技術について理解する。②グループワークの展開過程とそれに関わる知識と技術について学ぶ。③コミュニティワークの概念とその展開について理解する。④実践に関わる記録技術について学ぶ。	
		ソーシャルワーク論Ⅲ		講義形式で行う。主な目的は、ジェネラリストソーシャルワーカーとしての視点の獲得、基本的態度の理解である。そのために①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。（基盤と専門職：専門で教えるべき内容である）	
		ソーシャルワーク論Ⅳ		講義形式で行う。授業の目的は、ソーシャルワークに求められる多様な理論について、ソーシャルワークの成立過程を含めて学ぶことで、その特徴や多様性、基礎となる理論を学ぶことである。そのために、①人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。②ソーシャルワークの発展過程、および様々な実践モデルとアプローチについて理解する。③ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間学部社会福祉学科）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	専門部門	ソーシャルワーク論Ⅴ		講義形式で行う。授業の目的は、主にメゾ、マクロレベルでソーシャルワーカーが必要とされる視点、知識を学ぶことである。そのために①社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。②支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。③社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。	
		ソーシャルワーク論Ⅵ		講義形式で行う。目的としては、ここまで学んだソーシャルワーク論と、自身の実習等での経験を循環させ、理論に関連図板実践をより深く理解することである。そのために①社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。②支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。 ①、②について、ミクロ、メゾレベルの具体的な事例を用いて、解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。	
		社会福祉原論Ⅱ		講義形式で行う。以下の３点を目標とする。 ①現代社会における福祉制度や政策の概要を説明できる。 ②福祉原理や理論および哲学の要点を説明できる。 ③福祉ニーズと資源に対応する相談援助ができる。 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。また福祉の原理をめぐる理論および哲学に関する理解を深めるとともに、福祉政策の構成要素（政府、市場、家族、個人の役割を含む）、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の課題、福祉政策と関連政策との関係について学習する。さらに相談援助活動と福祉政策との関係についても学習する。	
		社会保障論Ⅱ		講義形式で行う。社会保障制度の目的、基本的仕組みを理論的に述べることができるようになることを目標とする。個人や家族の生涯において、貧困・低所得、病気、老齢、失業、業務災害などは、個人や家族の生活困窮・困難を引き起こす場合がある。社会保障制度は、その社会的対応策であり、“ゆりかごから墓場まで”、健康で文化的な最低限度の生活を守ることを目的としている。各制度の現代的課題や今後の方向性について説明する。歴史や現状を理解するために、新聞記事や関連資料はほぼ毎回提示し、映像資料は数回視聴する。	
		地域福祉論Ⅱ		講義形式で行う。以下の３点を目標とする。 ①地域福祉の発展過程を理解する。 ②地域福祉の推進方法（社会資源活用・調整・開発、地域福祉計画）について概要をつかむ。 ③地域福祉の概念と専門用語を理解する。 地域福祉の考え方と地域福祉推進の視点を学ぶことに加え、地域福祉の現在までの発展過程とその蓄積に基づき、２１世紀の人と社会のニーズに対応する、地方自治体をレベルでの地域福祉の推進方法と展開システムを学ぶ。	
		社会学		講義形式で行う。社会学とは何か、理論と方法を理解すること、加えてその知見から現実の問題の構造を見通し、「生活」の在り方を包括的に捉えなおし、現代社会について論じられるようになることを目標とする。社会学とは、人と社会の関係性を問う学問である。本講義では、方法論や具体的事例を紹介しながら、なるべくわかりやすく基礎概念を説明していく。現実の背後にある社会構造や社会変動についての理解を深め、現代社会の捉え方を学ぶ。最終的には、受講生一人ひとりが、社会学的知見を「使える知識」として身につけ、自身の価値観や行動様式、社会的現実について論じられるようになることが求められる。	
		医学概論		講義形式で行う。社会福祉を学ぶ学生が実践の現場において保健・医療の関係者と連携をとる際に必要とされる基本的な医学知識について学ぶことを目標とする。ヒトについて学ぶ上で基本となる人体の構造や機能、様々な疾患、障害などについて社会福祉の専門職にとって不可決な基礎的知識を習得するということだけではなく、一般職につく者、家庭で生活する者にとっても教養として身につけてほしい知識について学ぶ科目である。人体の構造と機能、疾病の概要、障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係をふまえて理解でき、国際機能分類（ＩＣＦ）の基本的な考え方、健康に必要な知識を身につけること及びリハビリテーションの概要について理解することを目指す。	
		医療福祉論		講義形式で行う。以下の４点を目標とする。 ①「現在の日本における医療の供給体制について説明できる。 ②医療に携わる医療従事者の資格と役割について説明できる。 ③社会保障の一部としての保健医療サービスのしくみ（主に診療報酬制度）を説明できる。 ④多職種連携の実際について説明できる。 社会福祉士国家試験に必要となる知識をテキストに沿って講義する。 主な内容は以下の項目である。 ①現在の日本における医療の供給体制について説明する。 ②医療に携わる医療従事者の資格と役割について説明する。 ③社会保障の一部としての保健医療サービスのしくみ（主に診療報酬制度）を説明する。 ④多職種連携の実際について説明する。	
		公的扶助論		講義形式で行う。生活保護制度の原理原則を学び、実際の運用における問題点を理解することにより、生活保護制度の本来の役割について説明することができるようになることを目標とする。我が国における公的扶助の代表的制度である生活保護制度の理念と内容を、福祉事務所のケースワーク実践を踏まえて理解する。また、現在検討されている生活保護制度の改正と制度の目指す方向性を考える。その上で、社会保障制度における生活保護制度の役割と社会的意義について考える。	
		児童福祉論		講義形式で行う。少子高齢社会における子どもの成長・発達と生活実態及び社会的背景について理解することを目標とする。児童福祉の歴史的展開、ニーズの把握と援助方法について取り上げる。加えて児童福祉法、子どもの権利条約等の理念をおさえ、現時点における児童福祉施策上の課題と法に規定された児童福祉機関、児童福祉施設および里親の現状とその援助の実際について学習する。さらに児童福祉分野で働く専門職の役割を学び、児童家庭福祉の推進に向けて検討する。主に講義形式にて授業を展開する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間学部社会福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	専門部門	高齢者福祉論		講義形式で行う。以下３点において、高齢者福祉の基本的な枠組みについて理解することを目標とする。 ①高齢社会の課題について説明することができる。 ②高齢者の生活実態について説明することができる。 ③高齢者福祉制度の発展過程と最新の制度について述べることができる。高齢者福祉を学ぶにあたって、まず、高齢者がどのような生活問題を抱えているのか概説する。その上で、現在の高齢者福祉制度の発展過程について説明を行う。	
		障害者福祉論		講義形式で行う。障害者の定義、障害の概念、「障害者総合支援法」等の法制度および施策、ライフステージに沿った療育・教育・雇用、「障害者ケアマネジメント」「多職種連携とネットワーキング」等の支援活動を理解することを目標とする。 「ノーマリゼーション」「自己決定」「権利擁護」「地域生活」等をキーワードに、具体的な支援のあり方をゲストスピーカーの講義も取り入れながら考える。本授業を通じ、障害当事者の生活と人権、支援のあり方を考える。講義形式で、主に教員が講義する。双方向型授業を重視し、ディスカッションも取り入れる。	
		司法福祉論		講義形式で行う。更生保護制度に関する概要を理解することを目標とする。更生保護制度とは、犯罪をした人や非行少年等の再犯・再非行を防ぎ、その社会復帰を支援することにより、社会の保護と個人及び公共の福祉の増進を図ることを目的とする。その中身は、保護観察、仮釈放、生活環境の調整、更生緊急保護、犯罪予防活動等、多岐にわたる。本授業では、更生保護制度の概要、更生保護制度の担い手、更生保護制度における関係機関・団体、医療観察制度等について学び、官民の協力と司法と福祉の連携が強く求められている現在の更生保護制度の全容を学ぶ。	
		権利擁護を支える法制度		講義形式で行う。憲法（特に基本的人権）、成年後見制度、その他社会福祉に関わりの深い法制度や法学の基礎について理解し、実際の事例に直面したときに解決策を自ら考えられるようになることを目標とする。学生との対話を重視した形式で実施する。それぞれの講義内容に沿った質問を講師から投げかけ、学生に回答していただく中で、制度の基本的な理解を得るとともに議論の土台となる表現力を獲得することを目指す。回答において正解を述べることは求められないが、事前の予習を活かしてなんらかの回答を行うことが求められる。また、講義の合間には、各界で活躍している実務家を招き、対談等を取り入れて講義に変化をつける。概ね、法学基礎知識の修得を１、実務的法学の習得を２の割合として授業を進行させる。	
		福祉経営論		講義形式で行う。福祉サービスの組織と経営の考え方を理解することを目標とする。今日の多様化・複合化した福祉課題に対してソーシャルワーク実践を行うためには、福祉サービスを「事業」として持続可能とすることが求められる。そしてこの持続可能性の基盤をなすのが経営である。具体的には、福祉経営における特殊性（経営に対する制度的な規制や財源、提供サービスの公共性・公益性・非営利性）と普遍性（企業・福祉を問わず組織運営一般に適用可能な経営管理の考え方）の２つの側面を学び、持続可能なソーシャルワーク実践を支える経営の理論・実際の両面に関する知識の獲得を目指す。	
		社会福祉調査論		講義形式で行う。問題設定、調査方法の選択、報告に必要な知識を養い、自ら社会調査を適切に実施できる力をつけることを目標とする。社会福祉調査とは、社会の持つ具体的な福祉の問題を明確にし、問題解決の道を探るための情報を得るために行うものである。通常、社会を構成するものすべてを調べることはできないので、その一部を選んで、調査し、その結果から全体を推し量ることになる。また、調査を行うためには、解明すべき具体的な問題（リサーチクエスチョン）を設定することが前提になる。そのうえで、その問題を明らかにできるような調査方法を選ぶ必要がある。なお、現実の社会福祉調査を行うためには、一定の倫理が必要である。しなければならないこと、してはならないことを自分で判断できるようにすることも目標である。量的な調査の理解のために必要な統計の知識についても理解できるようにする。	
		社会福祉の歴史		講義形式で行う。社会福祉史に関する概要を理解することを目標とする。歴史を「学ぶ」とは、単なる年号や人名の暗記ではない。一つひとつの歴史的な事柄を全体の流れの中に位置づけながら、自身の現在の立脚点を確認し、そこからどれだけ未来を見据えることができるようになれるかが、歴史の正しい「学び方」である。本講義では、日本における主に明治、大正及び昭和戦前期までの近代と呼ばれる時間軸の中で、社会福祉に関連する歴史を学び、それら「過去の蓄積」を現代社会にどのように活かしていくのかを、共に考えていきたい。	
		医療ソーシャルワーク論		講義形式で行う。医療という特殊な環境で行われるソーシャルワークについて理解することを目標とする。内容は大きく以下の３つ。 ①疾病と生活問題の関連 ②医療のパターナリズムと、自己決定、患者の権利、それに関わる医療ソーシャルワーク ③各領域（急性期、回復期、慢性期、終末期など）に特化した医療ソーシャルワークの具体例 授業は、基本的な知識を講義した後、予習で考えてきたことをグループディスカッションを行うことで、知識と経験の循環を行い理解を深める。	隔年
		エンド・オブ・ライフケア論		講義形式で行う。本講義ではターミナルケアを、ひとの死といかに関わるかを主たる問題意識として、その文化的な展開を総合的に学ぶことを目標とする。単にターミナルケアを「死の直前のケア」としてとらえるだけではなく、死の看取りにどのように日本人が関わってきたか、なぜターミナルケアが必要になってきたのか、ＷＨＯの提唱する「人間のいたみ」とは何か等、正確なターミナルケアや緩和ケア、ホスピス、グリーフケア等の知識と実際を学ぶことができる。さらには仏教がどのように死の看取りにかかわってきたのか、現在ではどのような状況なのか、学ぶことができる。自らの死生観を学ぶのにも有効な時間となる。	
		コミュニティソーシャルワーク論		講義形式で行う。ＣＳＷの基本的な概要を理解することを目標とする。ＣＳＷは、社会福祉法４条の「地域福祉推進」に向けた実践方法のひとつである。ＣＳＷは、個別ニーズの集積より地域共通課題を発見し、その地域共通課題への地域支援事業を計画する。さらにＣＳＷは、個別と地域の課題対応を図る実践の循環より、サービス開発や改善、及び地域福祉計画等を活用した地域サービスシステムの形成をめざす。本講義では、ＣＳＷの実践基盤となる理論と方法をふまえ、ワークシートによる具体的な支援過程と、各地のＣＳＷ実践の取り組みを学ぶ。	隔年

授業科目の概要					
（人間学部社会福祉学科）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	専門部門	インクルーシブデザイン論		講義形式で行う。目的は、すべての人々が自律的に社会に参加できるような社会を形成するために、様々な立場から、それぞれができることを創造することができるようになることを目的とする。多様な人々に対する理解、その人々の持つ困難、その困難の背景となる制度、文化、価値システムなど、ミクロからマクロに至るまで、多様な事例を取り上げ、その生活の要素とその関連を見ていくなかで、何ができるか、何をすべきか、何が課題なのかについて考える。	
		スクールソーシャルワーク論		講義形式で行う。以下の２点を目標とする。 ①スクールソーシャルワーカーの役割を述べることができる。 ②スクールソーシャルワークの展開過程を具体的にイメージできる。 スクールソーシャルワークは、教育現場で展開するソーシャルワークである。「子どもの権利」「連携」などをキーワードとして、スクールソーシャルワークの展開過程を事例を交えながら理解し、スクールソーシャルワークの機能と役割を理解する。グループワークや意見交換を交えながら行う。	
		精神保健学		講義形式で行う。精神保健学の概念について理解することを目標とする。本科目は精神保健福祉士国家資格取得のためのrequirement科目となっている。精神保健福祉士国家資格を取得しようとする学生のために開講されるものである。授業内容は国家試験の必要事項に沿って展開されるが、受験対策という視点のみならず、精神保健とはなにであるか、そしてメンタルヘルスの維持において大切なこと、維持のために必要なことが授業の終わりには十分に理解されるように構成する。双方向型授業を重視し、主体的に考えを深めるためにも、ディスカッションも取り入れて行う。	
		精神保健福祉の原理①		主に講義形式で行う。精神保健福祉士としての価値、態度形成のために必要な知識として、以下の３点を講義する。①わが国における精神保健および精神障害者福祉の歴史的な展開過程を説明できる。②WHOの障害概念、障害者の権利条約等国際的な動向を踏まえ、我が国の現状を分析し課題を整理できる。③最近の精神保健福祉施策および障害者総合支援法の内容を説明できる。精神保健と社会福祉との相関を踏まえた上で、精神障害者福祉の理念、制度ないし施策に関する概要の理解をすすめる。	
		精神保健福祉の原理②		主に講義形式で行う。精神保健福祉士としての価値、態度形成のために必要な知識として、以下の３点を講義する。①最近の精神保健福祉施策および精神保健福祉法の内容を説明できる。②最近の精神保健福祉施策および関連する社会保障制度の内容を説明できる。③最近の精神保健福祉課題に対応した精神保健福祉士の役割を理解している。精神保健と社会福祉との相関を踏まえた上で、精神障害者福祉の実態と専門職の在り方、および支援に関する概要の理解をすすめる。	
		精神疾患とその治療		講義形式で行う。以下の３点を目標とする。 ①精神疾患総論：代表的な精神疾患について、その成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援について理解する。 ②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について理解する。 ③医療機関の役割と機能、関係機関・職種との連携について理解する。 代表的な精神疾患について、成因、 症状、診断法、治療法、経過、本人や家 族への支援、及び精神科病院等における専門治療の内 容及び特性について概説をする。精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割と精神医療・福祉との連携の重要性と 精神保健福祉士がその際に担うべき役割について学ぶ。	
		精神保健福祉制度論		講義形式で行う。精神保健領域での相談支援を行うために必要な以下の４点を目標とする。①精神保健福祉法や関連する法制度の展開過程を説明できる。②精神障害者の置かれている現状を歴史的背景から理解し、今後の課題について学ぶことができる。③精神保健福祉法や関連する法制度及びサービスのあり方について理解を深めることができる。④精神保健福祉士の意義と役割を学ぶことができる。授業は、次の各点を講義する。 ①精神保健福祉に関する制度とサービスについて考察する。②日本における精神保健福祉分野の法制度及びサービス体系の成り立ちから現在までの展開課程を把握する。③精神神障害者の置かれている現状を歴史的背景から理解し、今後の課題を把握する。④精神保健福祉法や関連する法制度及びサービスのあり方について理解を深める。⑤精神保健福祉士の意義と役割を理解する。	
		精神障害リハビリテーション論		講義形式で行う。精神科リハビリテーション学の概念について理解することを目標とする。国家資格である精神保健福祉士が誕生し、早20年が経過した。この間、2010年には実践力を高める目的で精神保健福祉士法が改正され、これまでの「精神科リハビリテーション学」は、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」という新科目に統合された。そこで、本講義では、従来の精神科リハビリテーション学を狭い技術の枠ではなく、理念や基本原則を含み精神保健福祉士として共有すべき理論と相談援助の全体像を視野に入れて解題していく。教室での講義形式の座学を基本とする。	
		ソーシャルワークの理論と方法（専門）		講義形式で行う。以下の５点を目標とする。 ①精神保健福祉士の専門性を学習することができる。 ②相談援助における権利擁護の概念を理解し、専門職としてかかわることの重要性を把握することができる。 ③精神保健福祉分野における相談援助の意義を見い出し、総合的・包括的な援助と多職種連携について学ぶことができる。 精神保健福祉分野における総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術と、医療と協働・連携する相談援助の方法に関する知識と技術を習得することを目指す。 ④精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む）の展開について学ぶ。 ⑤精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について学ぶ。	
		社会福祉特講Ⅰ		講義形式で行う。国家資格で要求される専門知識の習得に向けて、土台となる基礎学力を身につけることを目標とする。実力を備えた社会福祉士になるための、最初の段階に位置づけられる講義である。社会福祉士として必要な知識のうち、それまでに学んできた基礎的な事項を学習する。ソーシャルワーク、社会福祉制度・政策の基本概念を学ぶとともに、実習に向けて、児童・障害・高齢の各領域について重点的に学習を行う。毎時間、前回の授業範囲の復習の後に、もっとも重要な事項について講義を行い、必要に応じてペア学習、グループワーク、演習によって理解を深め、知識の定着を図る。講義の終わりに、講義内容の確認テストを行う。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間学部社会福祉学科）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	専門部門	社会福祉特講Ⅱ		講義形式で行う。社会福祉士として必要な全科目について、基礎的な事項を学習することを目標とする。本講義は、実力を備えた社会福祉士になるための第二段階に位置づけられる。春学期には、社会福祉士試験と精神保健福祉士試験の共通科目について学習し、秋学期には社会福祉士試験の専門科目について学習する。授業では、まず、前回の授業範囲の復習テストを行う。その後、各自の予習を前提に講義と演習を行い、必要に応じてペア学習、グループ学習を行って理解を深め、知識の定着を図る。授業の最後に講義内容の確認テストを行う。	
		社会福祉特講Ⅲ		講義形式で行う。社会福祉士として必要な全科目について、重要な事項を学習することを目標とする。本講義は、実力を備えた社会福祉士になるための、本学における仕上げの段階に位置づけられる。春学期には、社会福祉士国家試験の全科目について、過去の社会福祉士国家試験の問題などを教材として学習する。講義も行うが、学生の主体的学習を軸とし、グループ学習も実施する。秋学期には、同じく全科目について、グループ学習方法を中心とし、様々な教材を活用して、近年の重要な制度改正を含めた重要な項目について学習する。授業では、原則として、まず、前回の授業範囲の復習テストを行い、当該授業の範囲について事前学習を前提とした講義・演習を行う。授業の終わりには、今回の授業で学習した内容について確認テストを行う。	
	実習・演習部門	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		演習形式で行う。社会福祉士の役割と意義について理解したうえで、相談援助に係る専門職として必要な知識や技術を、ソーシャルワーク実習の具体的場面のなかで体得するための準備性を高めることを目標とする。社会福祉専門職に求められる、価値・倫理の学習と、社会福祉施設等の機能、利用者像、その根拠となる法律等を関連して理解することで、専門職実践のための実習に臨む態度や姿勢を具体的に示すことができるようになる。また、実習事務の手続きや実習ノートの管理、書き方、オリエンテーションにおける留意点等、実習に伴う注意事項について伝達する機会とする。	
		インクルーシブデザインゼミナールⅡ		演習形式で行う。すべての人々が自律的に参加できる社会を目指すという共通の目的のもと、各自の関心のあるテーマ、方法でその実現のために必要なことを探求する。学生の関心と資質を尊重し、個別およびグループ学習を適宜使用てて学習を進める。インクルーシブデザイン論、インターンシップなどと適宜連携し、理論と実践の融合、先輩たちの活動報告や後輩の率直な意見などを聞くことによって、より多様な視点から、多角的な参加についての検討を深める。	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		演習形式で行う。４週間のソーシャルワーク実習Ⅰとの同時履修。社会福祉施設等での実習に臨む態度や姿勢を常に確認するとともに、実習事務の手続きや実習ノートの書き方等、実習に伴う注意事項について伝達する機会とする。また事前学習、配属実習、事後学習の各段階で、社会福祉士の役割と倫理及び相談援助に係る専門職として必要な知識や技術が理解できるよう指導を行う。さらに、ゲストスピーカーによるワークショップを行い、実習を通して学んだ内容の理解をより深める。	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		演習形式で行う。スクールソーシャルワーク、コミュニティソーシャルワーク、医療ソーシャルワークの積み上げ実習を行うための授業である。内容は、①学校や地域、医療機関におけるソーシャルワーク実習の意義について理解する。②学校や地域等を知り、組織を体験的に学ぶ。③学校、地域、医療機関におけるソーシャルワーク実習にかかる個別指導並びに集団指導を通して学校における相談援助活動やソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。④教育の場で生かせる社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に対応できる能力を習得する。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間学部社会福祉学科）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	実習・演習部門	ソーシャルワーク演習Ⅰ		演習形式で行う。適宜個別指導やロールプレイを授業効果を高めるために用いる。内容は以下の４点を目標とする。①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。	
		ソーシャルワーク演習Ⅱ		演習形式で行う。実習指導Ⅰ、実習Ⅰと関連づけながら、地域を基盤とした相談支援の基本的知識、技能を学ぶ。そのために以下の４点を目標とする。①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。　演習Ⅱ・Ⅲは、実習指導Ⅰ、実習Ⅰとも連動し、目標を達成することとする。	
		ソーシャルワーク演習Ⅲ		演習形式で行う。実習指導Ⅰ、実習Ⅰと関連づけながら、地域を基盤とした相談支援の基本的知識、技能を学ぶ。そのために以下の４点を目標とする。①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。②支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。③地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。④ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。⑤実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。演習Ⅱ・Ⅲは、実習指導Ⅰ、実習Ⅰとも連動し、目標を達成することとする。	
		ソーシャルワーク演習Ⅳ		演習形式で行う。以下の６点を目標とする。 ①社会的排除、虐待、家庭内暴力、低所得者、ホームレス支援に関する制度施策について説明することができる ②支援計画作成に関するプロセスや必要となる技術について具体的に述べることができる ③インテークやアセスメント、モニタリング、アフターケアに必要な面接技術を応用することができる ④プランニングに必要な記録技術を応用することができる ⑤会議運営に必要な技術を応用することができる ⑥グループ討議やロールプレイにおいて、自分の学習成果や意見などを的確に述べることができる 社会福祉士として相談援助に必要な知識や技術を、ロールプレイをおこない、体験として自らの技能、技術、知識として習得する。事例は、社会的排除、虐待、家庭内暴力、低所得者、ホームレス、権利擁護等の事例や、実習で体験した事例などを用いる。授業は、個別指導とグループワークを組み合わせながら演習形式で行う。	
		ソーシャルワーク演習Ⅴ		演習形式で行う。基本的には、実習Ⅰ、Ⅱ、演習Ⅰ～Ⅳまでの具体的体験の振り返りを通して学ぶ。主な目的は以下の２つである。①実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。②実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。より具体的には、これらの経験を通して、①スーパービジョン（専門職としての振り替えり）について、その方法と機能を学ぶ。②専門職としての自己覚知を深める。③それらをグループで行うことで、グループ。ピアスーパービジョン等の方法や効果について学ぶことを目的とする。	
		ソーシャルワーク演習Ⅵ		演習形式で行う。社会福祉士課程の上位科目として開講。スクールソーシャルワーカー養成のための科目である。ソーシャルワーク実習Ⅰ及びソーシャルワーク実習指導Ⅱを履修済であることが必須。スクールソーシャルワーク実践について、ミクロ、メゾ、マクロの各レベルにおけるアセスメント、プランニング、支援の実施について、演習を通して理解を深めることを目標とする。加えて、学校内での協働に役立つ、実践記録の創意工夫についても学ぶ。ソーシャルワーク実習Ⅲと同時履修にて学習を展開していく。	
		ソーシャルワーク実習Ⅰ		実習形式で行う。社会福祉施設等での実習に臨む態度や姿勢を常に確認するとともに、実習を通して相談援助に関する知識と技術について具体的かつ実践的に学ぶことを目標とする。また、事前学習、実習、事後学習の各段階で社会福祉士の役割と意義を理解するとともに、社会福祉士に求められる資質、技能、倫理や、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。さらに、関連分野の専門職との連携やその具体的内容についても実践的に理解する。実習先の実習指導者による個別指導及び集団指導。学内での講義及びグループワークにておこなう。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間学部社会福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	実習・演習部門	ソーシャルワーク実習Ⅱ		実習形式で行う。社会福祉士の役割と意義について理解し、相談援助に係る専門職として必要な知識や技術、倫理を様々な実践モデルの学びや事例分析、実習を通して会得することを目標とする。学校等でのスクールソーシャルワーク実習に臨む態度や姿勢を常に確認するとともに、学校や学校組織を体験的に理解する。そして、社会福祉士としての倫理、知識、技術を、教育現場で生かすことができる総合的対応能力を養う。社会福祉士の役割と意義、社会福祉として求められる資質、倫理等について理解し、社会福祉施設等での実習を的確に実施するために、事前・事後各段階での学習課題を確実に達成できており、相談援助に係る専門職として必要な知識や技術について具体的かつ実際的に理解でき、それらが身についていることが目標である。	
		ソーシャルワーク実習Ⅲ		演習形式で行う。スクールソーシャルワーク、コミュニティソーシャルワーク、医療ソーシャルワークの積み上げ実習を行うための授業である。内容は、①学校や地域、医療機関におけるソーシャルワーク実習の意義について理解する。②学校や地域等を知り、組織を体験的に学ぶ。③学校、地域、医療機関におけるソーシャルワーク実習にかかる個別指導並びに集団指導を通して学校における相談援助活動やソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。④教育の場で生かせる社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に対応できる能力を習得する。	
		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ		演習形式で行う。精神保健福祉士の実習に向けての準備学習及び事前学習をするための科目。ソーシャルワーカーである精神保健福祉士として、よりスペシフィックな専門性を習得するために精神保健福祉機関における実習体験を通じて、そこで活用される専門知識および技術などを実践できる能力を身につけることを目標としてスーパービジョンを行う。また、具体的な相談援助やリハビリテーション活動等を理論化して体系立てられる能力をも修得するための実習指導を展開する。演習形式で、学生に順次発表・回答させる。双方向型授業を重視し、ディスカッションも取り入れる。	
		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ		演習形式で行う。ソーシャルワーカーである精神保健福祉士として、よりスペシフィックな専門性を習得するために精神保健福祉機関における実習体験を通じて、そこで活用される専門知識および技術などを実践できる能力を身につけることを目標としてスーパービジョンを行う。また、具体的な相談援助やリハビリテーション活動等を理論化して体系立てられる能力をも修得するための実習指導を展開する。精神保健福祉士の実習体験を通じ、より高い専門性を修得する。演習形式で、学生に順次発表・回答させる。双方向型授業を重視し、ディスカッションも取り入れる。	
		精神保健福祉援助実習Ⅰ		実習形式で行う。精神保健福祉士のスペシフィックなより高い専門知識および技術などが実践できる技能を身につけること、具体的な相談援助やリハビリテーション活動等を理論化して体系立てられる能力をもつことを目標とする。ソーシャルワーカーである精神保健福祉士として、よりスペシフィックな専門性を習得するために精神保健福祉機関における実習体験を通じて、そこで活用される専門知識および技術などを実践できる能力を身につけるためのスーパービジョンを行う。また、具体的な相談援助やリハビリテーション活動等を理論化して体系立てられる能力をも修得するための実習指導を展開する。	
		精神保健福祉援助実習Ⅱ		実習形式で行う。精神保健福祉士のスペシフィックなより高い専門知識および技術などが実践できる技能を身につけること、具体的な相談援助やリハビリテーション活動等を理論化して体系立てられる能力をもつことを目標とする。ソーシャルワーカーである精神保健福祉士として、よりスペシフィックな専門性を習得するために精神保健福祉機関における実習体験を通じて、そこで活用される専門知識および技術などを実践できる能力を身につけるためのスーパービジョンを行う。また、具体的な相談援助やリハビリテーション活動等を理論化して体系立てられる能力をも修得するための実習指導を展開する。	
		精神保健福祉援助演習Ⅰ		演習形式で行う。精神保健領域における実習前に習得すべき技能を獲得することを目的とする。具体的には、下記の２点を中心に行う。①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。	
		精神保健福祉援助演習Ⅱ		演習形式で行う。精神保健福祉援助演習を基盤に、精神保健福祉実習Ⅰ、精神保健福祉実習指導Ⅰとも関連付けながら、必要なスキルを習得する。具体的には、下記の２点を中心に行う。①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。	
		精神保健福祉援助演習Ⅲ		演習形式で行う。ここまでの精神保健福祉援助演習、精神保健福祉実習、精神保健福祉実習指導とも関連付けながら、必要なスキルを習得する。具体的には、下記の２点を中心に行う。①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。その結果精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できることを目指す。	
	応用部門	プロジェクト研究Ⅰ	○	演習形式で行う。これまでの科目履修の成果をふまえ、最終学年の卒業論文・研究の事前学習を促進するために、自己の社会福祉実践に関する問題関心を明確化することを目標とする。教員の指導を受けながら、自分が関心のある課題に関する文献・資料・実践記録等を収集し、それを教材にした演習を行う。卒業後、社会福祉および精神保健福祉領域で働くための実践能力と論理性を身につけることを目指す。また、社会福祉実践への問題関心を明確にし、自己の社会福祉学および実践における問題関心を説明・記述することができるようになる。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間学部社会福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅱ類科目	応用部門	プロジェクト研究Ⅱ	○	演習形式で行う。社会福祉実践への問題関心を整理し、自己の卒業論文・卒業研究のテーマや研究方法を説明、記述することができるようになることを目標とする。実習やインターンシップ等での学習成果を踏まえ、卒業論文・研究を視野に入れた各自の問題関心の整理を目指す。これまでの学習をさらに発展させ、問題関心に関連する先行研究を深めることで、最終年次に向け、それらを整理、表現するための研究方法のいくつかを学習する。そして、研究成果をまとめたレポートを作成する。	
		プロジェクト研究Ⅲ	○	演習形式で行う。プロジェクト研究Ⅱで確定した研究テーマについて、個人またはグループでさらに探究し考察を深めることを目標とする。研究テーマに関する先行研究をふまえた上で、研究計画に従って実地調査・アンケート調査・インタビュー調査等に取り組み、分析する力を身につける。上記により、自分が取り組む研究テーマについて、その問題意識や目的を述べることができるようになる、研究計画を示すことができる、レジュメ等を用いて研究の中間報告をすることができることを目指す。	
		プロジェクト研究Ⅳ	○	演習形式で行う。プロジェクト研究Ⅲにおいて深めた研究テーマについてさらに考察を深め、プロジェクト研究として完成させることを目的とする。以下の３点を目標とする。 ①研究テーマに関するキーワードを説明することができる。 ②研究テーマの成果を社会で実践することができる。 ③研究テーマにアプローチするための研究方法を工夫することができる。 これまでのまとめとして、ディスカッションや講義等も交えながら展開し、グループ形式による学習成果の発表を行う。	
		インターンシップ		実習形式で行う。インクルーシブデザインゼミナール、インクルーシブデザイン論と適宜連動し、社会福祉関連資格の取得に必要な場所以外での、実践的な経験、実証的な検証を行うことを目的とする。主に、自身の関心あるテーマ、対象の実態について、実態に基づく理解を深める。または自分が考えた仮説の検証などを行うことを目的とした授業である。対象も方法も多様であるため内容についての限定はないが、体験や実証に関わる計画、報告は統一のルールのもと行われることが重視される。	
		卒業研究	○	プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳの学習をふまえ、小グループ毎にプロジェクトのテーマと設定し、グループで役割分担し協力して進める。研究は、担当の教員の指導を受け、論文執筆規定をふまえた上で、問題意識が明確で論旨が一貫した報告書や作品等を作成し、グループ協働により成果発表する。　　グループ研究のため、グループメンバーとして自覚した行動がとれること、自分の分担範囲だけでなく、成果全体が理解できていることも重要である。さらに、研究報告の際は、レジュメやパワーポイントのわかりやすいさ、グループと個人の熱意や応答の的確さ、及び全体の構成や考察も含めて、４年間の学修集大成として評価される。	
		卒業論文	○	４年間の学内外での学習を踏まえ、プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳにおける学習と指導を踏まえ、社会福祉学の学士の学位を意識し、個人でテーマを設定し論文作成を行う。研究は、担当の教員の指導を受け、論文執筆規定をふまえた上で、問題意識が明確で論旨が一貫した論文を作成し、成果を発表する。成果の発表に関しては、成果物に評価に加えてパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行い、審査は複数の教員の審査に基づき評価される。	
第Ⅲ類科目	アントレプレナーシップ育成教育プログラム	超スマート社会論		オンデマンドによる講義形式で行う。未来の社会は仮想空間と現実空間が高度に融合し、人々が活き活きと活動し、快適に暮らす社会が実現すると言われている。人とロボット・AIとの共生、多様なニーズに合わせたサービスの提供とサービス格差の解消、新しいコミュニティの創造など新たな価値が生み出される。しかし、一方で様々な問題も起きてきている。超スマート社会を実現する様々な技術や社会の動向を学び、私たちの生活がどのように変わるのか、そのような社会で私たちはどう活躍し、貢献できるのかを考える。	メディア
		新共生社会論		オンデマンドによる講義形式で行う。他者とのつながり、地域との交わり、モノとの関係性、あるいは先人たちとの関係性をもって、「私」が存在している。この世界が「関係性」で成立している以上、私たちも無関係ではいられない。様々な現場に関わる人々の活動をふまえ、彼らの原動力がどこから生まれてくるのかを知り、また、私たちがどのように主体的に関わっていけるのか、などについて「自分ごと」として学ぶ。講義を通して、「これからの自分はどうあるべきか」「新しい価値をどう生み出していけるのか」などの意識を高め、次代のアントレプレナーとしての原動力を育むことを目的とする。	メディア
		地域人イズム論		オンデマンドによる講義形式で行う。地域を支え、多様な立場で地域を創造する全国の「地域人」の生き方・働き方を取り上げ、これから自分自身がどのような「地域人」像を描きながら、生きていきたいかを探究する。 全国の「地域人」の生き方・働き方、価値観、ライフストーリーに触れ、地域で生きることの面白さ、魅力に出会い、自分自身が目指したい将来の「地域人」像を描き、「地域人」とは何か、自分自身がなりたい「地域人」とはどのような姿か、他者に伝えられるように言葉にする。	メディア
		アントレプレナーシップ論		オンデマンドによる講義形式で行う。停滞する日本社会では新しい価値を創出するイノベーションが求められている。起業家をはじめ実社会で活躍する企業人の事例に多く触れて、講義を通じての質疑や意見交換の中から、経済社会で活動するにあたり必要とされる基本的な基礎知識を理解し、実際に生かせるようにする。加えて起業への興味・関心を持ち、実際のビジネスプラン策定に必要な心構えや専門知識及び準備の手順を理解し、新たな価値を提供し社会に貢献するために必要なアントレプレナーシップを身につける。	メディア
		ロジカルシンキング		講義形式で行う。ロジカルに考える思考力とビジネスで活用できる各種フレームワークを組み合わせた課題解決の手法を学ぶ。 直感や感覚的に物事を捉えるのではなく、筋道を立てて矛盾・破綻がないように論理的に考え、結論を出すロジカルな思考法はビジネスにおいて重要なスキルである。複雑な情報や自分の意図を、相手に的確にかつすばやく伝えるための必要な考え方を個人、グループワークを通じて学び、より実践的に学びあう。	
		データ分析技法		講義形式で行う。大量のデータが得られるようになった現代では、データをもとにした意思決定やアクションを行う必要性が業界問わず増している。「課題設定→分析設計→データ整備→データ分析→結果解釈/施策検討」というデータによる意思決定の進め方についての一連の流れを学ぶ。 店舗の実データを用いて、「どのような課題を解決すべきか（課題設定）」「どのような分析を行うか（分析設計）」「分析結果からどのようなアクションにつなげるか」を多数の演習やグループワークを交えて実践的に学び、データドリブンな意思決定を進めるための礎を体得する。	
		プログラミングの基礎		講義形式で行う。コンピュータの特徴を踏まえ、プログラミング的な思考を習得することを目的とし、プログラミングの基本的な構文を学習する。 プログラミングツール「Scratch」を使用し、様々な指令を与えて具体的な反応を見ることを通じてプログラミング的な思考を学ぶ。さらに、ヒアリング要件をもとにプログラムを設計し、ロボットに実装し運用までを試み、実践的にプログラミングとアルゴリズムを修得する。	

授業科目の概要 （人間学部社会福祉学科）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅲ類科目	アントレプレナーシップ育成教育プログラム	ファイナンスの基礎		講義形式で行う。社会においては、あらゆる事業体が社会の変化に対応してイノベーションを起こし、持続可能なものにしていくことが求められており、それゆえファイナンスの知識を具現していることが不可欠である。 経済活動のしくみとその内容、意味、歴史的背景や問題点を考察しながら、産業の育成や起業の在り方を検討し、国際社会の動向とその影響、市場メカニズムの意義と限界を理解するとともに、国内においては人口減少及び資金調達方法の多様化にともない激変する金融システムも理解しながら、的確なファイナンス手法とは何かを学ぶ。	
		財務会計の基礎		講義形式で行う。「財務諸表」と「経営」を結び付けて考えることが出来る人材へのニーズは非常に高まっている。また、将来経営者として、自身の経営する会社の持続可能性を高めるうえでも大変重要なポイントになる。企業活動の結果である「財務諸表」の数字から、どの様な企業活動を進めていたのか、「財務諸表」を身近にしていく事を目的にする。 様々な企業の「損益計算書」や「貸借対照表」の数字について、様々な視点から考察しながら、グループ討議等により他者の視点を共有し、視野を広げて想像し分析する力を身につける。	
		マーケティングの基礎		講義形式で行う。マーケティングの基本用語や機能についての理解をもとにして、デジタルマーケティングをはじめとする近年のマーケティング実践を、実例を踏まえて学ぶ。デジタルマーケティングにおいても、顧客理解を起点としてものごとを考えること・マーケティング思考の重要性は変わらない。実社会の企業や組織の発展やヒット商品の誕生などの要因分析や、商品開発、起業などの場面で、自ら活用・実践できるようになることを目的とする。	
		言語表現技術Ⅰ		講義形式で行う。コミュニケーションに必要な「ことば」を改めて取り上げ、ことばの力を知り、自分らしい「伝わる表現力」を習得する。 具体的な事例や自分の周りの出来事から何を感じ、何が問題なのか、どう解決できるかを考え、日頃の問題意識から社会を見る目を養う。それらの視点を意識したうえで、コミュニケーションの表裏である「きく」を実践する。実際にインタビューを行うことで、何をきくのかの大切さ、事実をきく重要性を学ぶ。また、いろいろな意見から真実にたどり着くには何が必要か実践と討議により考える。	
		言語表現技術Ⅱ		講義形式で行う。事実を見る目、思考力を養い自己発信力、きく力を身に付けコミュニケーション力を向上させ、人的ネットワークを拡げるためのスキルを身につける。 相手に伝わる表現力、相手を理解するインタビュー力を身に付けるには何が必要かを、身近な社会現象、自分の生活体験を通して考え、演習を重ね、「話す」、「きく」力＝表現力を磨いて円滑なコミュニケーション力を身に付け、ひいては人的ネットワークの構築力を高める。	
		情報表現技術Ⅰ		講義形式で行う。地域や企業の情報発信における課題を解決するために、文章や画像、動画といったデジタルコンテンツの企画・制作に関する技術を学ぶ。 誰もがデジタルメディアを通じた情報発信にかかわるようになった現場の課題に応えるスキルを実践的に学ぶ。 ワークショップとグループワーク、発表、講評の繰り返しを通じて、文章や画像、動画といったデジタルコンテンツの企画・制作に関するスキルを身につける。	
		情報表現技術Ⅱ		講義形式で行う。運営者になったつもりでコンテンツを企画・制作したりといった活動を、ワークショップ形式で実施する。 情報表現技術Ⅰで身につけたスキルを活用し、デジタルコンテンツの流通する主たるメディアであるソーシャルメディアの性質やファンコミュニティの特徴について学び、実践的なリサーチをおこない、活用するスキルを身につける。	
		キャリア探究A		講義形式で行う。大手企業から中堅企業まで様々な経営者または経営管理者層から、企業経営の実際について体験に基づいた話（企業の役割、業種の多様性、業界の動向、経営理念、経営戦略、経営者の役割とマネジメント）を中心に、今後求められる人材像をテーマにグループワークを行い、働くことの意義や仕事（職業）の選択の考え方について議論し、将来のキャリアを探究する。	
		キャリア探究B		講義形式で行う。中小企業の経営者が企業経営の実体験に基づいて語る中小企業の役割、業種の多様性、経営理念、経営者の役割とマネジメントなどを題材にグループワークを行い、働くことの意義や仕事（職業）の選択の考え方について議論し、将来のキャリアを探究する。	
		キャリアデザインA		講義形式で行う。将来のキャリアビジョンを描き、実現するためのはじめの一歩である。自己理解を深め、自分らしいキャリア構築を実現するために具体的なアクションプランを策定すると同時に、目標達成にむけて必要なスキルを毎回の実践的トレーニングを通し高め、最終的には社会で求められる資質・能力を培う。	
		キャリアデザインB		講義形式で行う。人生100年時代と言われる中、自ら課題を見つけ、解消していく力が求められている。その課題を解決するために「自分とは」「社会とは」を考え、今後の人生を生き抜く「自分軸」を確立することを目的とする。また、社会で良質な陣限関係を構築するために、他者と協働するためのリーダーシップ・対人コミュニケーション力をケーススタディを含む実践的なワークの中で身につける。	
		コミュニケーション		講義形式で行う。多様な価値観が様々な方法で飛び交う時代に、コミュニケーションスキルは最も重要なスキルの一つである。1対1、複数対複数、ワークショップ形式、ビジネスシーン等のシチュエーションに基づいた重要要素、スキルの理解とグループワークでの実践を通じて、今後のビジネスや社会生活において有用な知識の習得する。 様々なシチュエーションを想定し、社会に出てからも“使いこなせる”オンライン・オフラインを問わない万能なコミュニケーションスキルを基礎と実践で学ぶ。	
		リーダーシップ		講義形式で行う。新たな価値を生み出すための変革を実現するために、自らが主体となって様々な人たちを巻き込み、動機づけ、社会課題に挑戦するリーダーシップのあり方やスキルについて学ぶ。 加えてモチベーション理論や関連した行動科学の理論を学び、身近な組織や自分が所属する集団の状況をこれらの理論に当てはめて分析することで、リーダーシップの有効性と集団の状況との関係を考える。 様々なリーダーシップ理論を援用して、自分自身の行動スタイルやリーダーシップを発揮できるようになることを目的とする。	
		ファシリテーション		講義形式で行う。現実社会で難しい状況にもひるまず臨むファシリテーション力を身につけ、多様な価値観・背景をもつ参加者が、目的実現に向けて、限られた時間の中で合意形成し、解決策を考案することを目的とする。 「お互いを知り合う」ことから始め、現状の問題意識、将来への思い、テーマ設定、合意形成、解決策決定など、段階に応じた話し合いを実践する。これらのグループワークを通して、必要最小限のファシリテーション知識を確認したうえで実践練習し、振り返り、様々な手法を身につける。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間学部社会福祉学科）					
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第Ⅲ類科目	アントレプレナーシップ育成教育プログラム	プレゼンテーション		講義形式で行う。プレゼンテーションの概念、作成方法および発表手法を学び実践することで、相手に伝わるアウトプット（言語化・表現手法）スキルの習得を目的とする。 プレゼンテーション＝単なる発表・報告ではなく、ビジネスシーンにおいて必要とされるプレゼンテーション（相手を動かす、目標を達成する）について理解し、構成の作り方・デザインスキルを身につける。また、ターゲット・目的・シチュエーションに合わせてプレゼンテーションの構成を自分の力で組み立て、伝えたいことを論理的にまとめ、言語化する力を培う。	
		マネジメント		講義形式で行う。企業やNPOといった組織が期待に応える成果をあげていくためになされる活動の背景にあるマネジメントの基礎を学び、実践するための継続学習の起点を作る。 マネジメントとは何か、その目的、役割は何かどのようなことをすればよいのかを事例や演習を通じて全体像を習得する。事業を立ち上げる土台となるマーケティングとイノベーションの位置づけと関係、アントレプレナーシップに基づく戦略の習得にもウエイトを置き、バランスの取れたマネジメントを学ぶ。	
		ビジネス英語		演習形式で行う。世界のビジネスシーンでいま何が起きているのか、また国際社会での日本の立ち位置について理解し、学生自らがそれらのテーマについて主体的に思考する機会を設ける。 授業はAll English、すなわち英語で行われる為、学生の基礎英語力をビジネスに必要な英語コミュニケーション力へとブラッシュアップすることを目的とする。具体的には、英語でビジネスについてのインプットを行い、身に付けたビジネス英単語や表現方法を活用しながら英語でのアウトプットにも挑戦する。	
		ビジネス中国語		演習形式で行う。グローバルビジネス現場で使われる中国語コミュニケーションの理論、基礎知識、実践能力を学ぶ。 中国ビジネスをみていくうえで必要なビジネスコミュニケーションの基礎を学び、具体的な中国語ビジネスコミュニケーションスキルを場面別に学習する。さらに、基礎と応用能力を融合させ、実践的なビジネスコミュニケーション能力を身につける。	
		マイスターワークショップ		新しいビジネスの開拓、既存の仕事や事業の改革、人やコミュニティづくりなど新しいことに一歩を踏み出し、社会に貢献できる能力を「知識」と「実践」の融合により修得する。 様々な分野で活躍する方々との対話を通して、地域を題材とした学びと活動を一体化した実践的な学びを行い、新しいことにチャレンジするアントレプレナーシップの修得し、地域戦略人材となることを目的とする。	
		マイスターフィールドワーク		サテライトキャンパス（南三陸、京都、藤枝、淡路、阿南）や付置研究所の地域構想研究所の地域支局を活用してフィールドワークを実施し、現地の自治体、NPO、企業、教育機関などと協働し、地域の課題可決に取り組む。 地域に関するデータの収集・整理・分析を通じて、地域の課題を発見し、改善・解決するための方向性を構想しながら活動計画を立て、実行するための手法を身につける。これまでの「知識」を「実践」の場で活用できることを目的とする。	
		マイスターインターンシップ		インターンシップは、国内における様々な組織で実施されている仕事を体験し、労働の意義・倫理等を自ら気づき、職業への意識や理解を高め、社会人としての必要な技能を培うと共にキャリアを考えることを目的とする。 企業実習にあたっては事前に必要な業界研究・企業研究を実施する。実習では日々の気づき、体験を通じて得られた知見、その課題などについて毎日リフレクションを行い、実習レポートを取りまとめる。それらの経験を発表、グループで共有し、将来のキャリアに繋げていく。	
		短期留学		グローバル化の進む世界にあって、国内外を問わず、異文化理解、外国語習得、国際的活動に必要なコミュニケーション能力が強く求められている。 海外での短期研修を通じて、異文化・多文化環境への適応力の養成と、外国語による実践的なコミュニケーション力の向上を図り、多文化社会において実力を発揮できる自信を体得することを目的とする。	
		海外インターンシップ		海外での就業体験を通じて、国際的なビジネスにおける職業への意識や理解を高め、リーダーシップやチームワークを実践的に学び、グローバルな知見を広げる。また、複数業種の海外企業を視察して様々な働き方を知り、自分のキャリアを考える。	

学校法人大正大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度		入学定員	編入学定員	収容定員		令和6年度		入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
大正大学						**大正大学**					
仏教学部	仏教学科	100	3年次 33	466	→	仏教学部	仏教学科	100	3年次 33	466	
社会共生学部	公共政策学科	130	－	520				0	－	0	令和6年度4月学生募集停止
	社会福祉学科	65	3年次 2	264				0	－	0	令和6年度4月学生募集停止
心理社会学部	人間科学科	120	3年次 2	484				0	－	0	令和6年度4月学生募集停止
	臨床心理学科	110	3年次 2	444				0	－	0	令和6年度4月学生募集停止
						人間学部	人間科学科	120	3年次 2	484	学部の設置（届出）
							社会福祉学科	65	3年次 2	264	学部の設置（届出）
						臨床心理学部	臨床心理学科	110	3年次 2	444	学部の設置（届出）
文学部	人文学科	65	3年次 2	264		文学部	人文学科	65	3年次 2	264	
	日本文学科	70	3年次 2	284			日本文学科	70	3年次 2	284	
	歴史学科	160	3年次 2	644			歴史学科	160	3年次 2	644	
表現学部	表現文化学科	205	－	820		表現学部	表現文化学科	80	－	320	収容定員変更（△500）
							メディア表現学科	155	－	620	学科の設置（届出）
地域創生学部	地域創生学科	100	－	400	→	地域創生学部	地域創生学科	100	－	400	
							公共政策学科	100	－	400	学科の設置（届出）
計		1125	45	4590		計		1125	45	4590	
大正大学大学院						**大正大学大学院**					
仏教学研究科	仏教学専攻（M）	30	－	60		仏教学研究科	仏教学専攻（M）	30	－	60	
	仏教学専攻（D）	7	－	21			仏教学専攻（D）	7	－	21	
人間学研究科	社会福祉学専攻（M）	5	－	10		人間学研究科	社会福祉学専攻（M）	5	－	10	
	臨床心理学専攻（M）	18	－	36			臨床心理学専攻（M）	18	－	36	
	人間科学専攻（M）	3	－	6			人間科学専攻（M）	3	－	6	
	福祉・臨床心理学専攻（D）	3	－	9			福祉・臨床心理学専攻（D）	3	－	9	
文学研究科	宗教学専攻（M）	5	－	10		文学研究科	宗教学専攻（M）	5	－	10	
	宗教学専攻（D）	2	－	6			宗教学専攻（D）	2	－	6	
	史学専攻（M）	10	－	20			史学専攻（M）	10	－	20	
	史学専攻（D）	2	－	6			史学専攻（D）	2	－	6	
	国文学専攻（M）	3	－	6			国文学専攻（M）	3	－	6	
	国文学専攻（D）	2	－	6			国文学専攻（D）	2	－	6	
	計	90	－	196			計	90	－	196	